

資料に基づき説明があり了承され、教務委員会に諮ることとした。

2. その他

第4学年工場見学の目的、実施時期について意見交換が行われた。

7. その他

- ・専攻科分科会：7/31(火)及び9/7(金)に学位授与申請関係ガイダンスを実施する旨説明があった。
- ・学生表彰選考分科会：特になし
- ・複合型生産システム工学プログラム推進部会：特になし
- ・FD部会：公開授業への参加について協力依頼があった。
- ・情報教育部会：夏季休業中にE-Learningによる情報モラルに関する課題を出す予定であること、情報セキュリティに関してシラバスを修正するかもしれないこと、学生Office365利用再開に係るE-Learning教材視聴の時間割案を作成中であることの説明があった。
- ・創造活動プロジェクト：特になし

平成31年2月
教 務 主 事

答案等の保管に当たっての留意事項

I JABEE 受審用「可」答案等の保管について

学科第4学年以上の答案等の保管方法については、ひとまず保留とします。JABEE 受審へ向けた具体的な対応が必要になった時点で対応できるように保管願います。

II 学科1～3 学年を含むすべての答案等の保管について

学科1～5 学年及び専攻科の中間試験及び定期試験の答案等については、以下の項目に留意し、すべての答案等をPDF形式の電子データで保管してください。

PDF形式の電子データの保管方法は、「答案・成績等電子データ保管サーバ利用ガイド」をご参照下さい。

レポートや小テストなどの紙媒体の資料につきましては、研究室に確実に保管いただくか、2 寮の JABEE 準備室に保管して下さい。鍵の貸し出しは総務課総務企画係で行います。

1. 試験問題の項目ごとに、シラバスに記載した「授業計画」内「週ごとの到達目標」の番号（この授業で習得する「知識・能力」の番号）、及び配点が明記されていること。
2. 複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないこと。同じ試験問題とは、8割以上が同じであることを目安とする。
3. 実験・実習科目のレポート等は、科目名・実施年度・担当教員名・学年・クラス等、必要と思われる情報を明記した上で、研究室に確実に保管いただくか、2 寮の JABEE 準備室に保管する。

III 答案保管用ファイルについて

保管用ファイル（A4版ドッチファイル）及び表紙・背表紙シール等が必要な場合は、授業科目名、学科（専攻）、学年（年次）、必要枚数を明記したメールで、総務課総務企画係に依頼して下さい。

- （1）A4版ドッチファイル（「可」答案等保管用）
ブルー（学科）
グレー（専攻科）

不明な点は、各科の点検評価部会員にお尋ね下さい。

答案保管自己点検表(30年度)

科目名	学科等	授業担当教員
	教養 M E I C S D B DB A	

チェック項目（チェックした項目は□にレ点を入れてください）

◆シラバス

- ☐ シラバスは30年度版か

◆成績評価シート

- ☐ シラバス記載の評価方法との不一致はないか
- ☐ 成績評価シートに記載した点数は答案と一致しているか
- ☐ レポート提出や小テスト等の実施回数が把握できるか
- ☐ 評価シートだけから評価方法が理解できるか（審査員が短時間で理解できるか）
- ☐ 追認試験を行った場合、その成績が記載されているか

◆試験問題と模範解答

- ☐ 模範解答が同フォルダに収納されているか
- ☐ 複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないか
- ☐ 試験問題に、[この授業で習得する「知識・能力」]の番号、及び配点が記されているか
- ☐ 追認試験を行った場合、その問題及び模範解答はファイルされているか

◆答案の保管に関して疑問点・意見などがあればご記入ください

平成30年度第3回点検評価&JABEE 合同部会議事録

日 時：平成30年11月9日（金）16：20～17：10

場 所：教育プロジェクト企画推進室

出席者：（点検評価部会）

■■■■（部会長）、■■■■（M）、■■■■（I）、■■■■（C）、■■■■（S）、■■■■（G）、■■■■（G）、■■■■（I）、
■■■■（総務課長） ■■■■（学生課長）
（JABEE 部会）

■■■■（部会長）、■■■■（E）、■■■■（S）、■■■■（G）、■■■■（総務課長）、■■■■（学生課長）

欠席者：■■■■（E）、■■■■（C・専）、■■■■（M）、■■■■（I）、■■■■（C）

陪 席：■■■■（総務企画係長）

議 事

前回議事要旨の確認

■■■■部会長より、第2回点検評価&JABEE 合同部会議事録について確認があり、了承された。

1. 機関別認証評価訪問調査の暫定結果について

■■■■部会長より、機関別認証評価訪問調査の暫定結果について、資料1に基づき説明があった。

出席者から以下の意見があった。

- ・改善を要する点として、基準5の一部科目で複数年度あるいは本試験再試験が同一問題であったことについては、該当の教員及び全教員に通知するべきではないか。
- ・試験問題作成について、何らかの委員会・会議等で今後の方針や留意点について検討していくべきではないか。

2. 今後のスケジュールについて

■■■■部会長より、機関別認証評価の最終評価を受けるまでの今後のスケジュールについて、説明があった。

3. その他

今年度の合同部会については、来年1月末の仮評価に対し、部会として回答する必要が生じた場合に開催する。

平成30年度第1回自己点検評価・改善委員会 議事録

日 時：平成31年3月22日（金）15:40-17:15

場 所：第三合併講義室

出席者：■■■■学生主事，■■■■寮務主事，■■■■専攻科長，■■■■学科長，■■■■学科長■■■■教養教育科長，■■■■点検評価部会長

欠席者：■■■■校長，■■■■副校長，■■■■研究主事，■■■■学科長，■■■■学科長，■■■■学科長，■■■■事務部長

陪 席：■■■■総務課長，■■■■学生課長，総務企画係

◎平成30年度 委員会等活動報告会について

■■■■学生主事から口頭により、3/22(金)15:00-15:30 の間に行われた委員会等活動報告会に関する説明があった。

◎自己点検評価・改善委員会議事内容

1. 平成30年度 第1回PDCA推進会議議事要旨の確認

資料1

■■■■PDCA推進会議長から資料1に基づき、3/12(火)に開催したPDCA推進会議の議事録に関する確認があった。

2. PDCA推進会議報告

(1) 平成31年度 点検評価・改善活動（PDCA サイクル）（案）について

資料2-1

■■■■PDCA推進会議長から資料2-1に基づき、次年度の点検評価・改善活動（PDCA サイクル）に関する説明があり、10月か11月に中間チェックを行うとの報告があった。

(2) 平成31年度自己点検評価_外部評価_アンケート等の実施計画

資料2-2

■■■■PDCA推進会議長から資料2-2に基づき、本年度の自己点検評価・外部評価に関する取り組み実績の報告があった後に、次年度の実施計画に関する説明があった。

(3) その他

特に報告事項等なし。

3. 点検評価部会報告

(1) 平成30年度「学生との意見交換会」における意見等に対する対応実績のまとめについて

資料3-1

■■■■点検評価部会長から資料3-1に基づき、学生との意見交換会における意見等に対する対応実績に関する説明があり、学生との意見交換会で出された意見等は、今後、主事補会議等においても報告することを確認した。

(2) 平成28年度卒業生上司への学習・教育到達目標の達成度等に関するアンケート調査結果について

資料3-2

■■■■点検評価部会長から資料3-2に基づき、集計結果の分析に関する報告がなされた。

また、認証評価受審時に「アンケート結果がフィードバックされていない」との指摘があったことから、他の教員にも目に触れるようにするとの発言があった。

(3) 平成30年度及び第3期中期目標・中期計画の期中5カ年に関する自己点検評価報告書について

資料3-3

■■■■点検評価部会長から資料3-3に基づき、自己点検評価報告書に関する説明があり、自己評価が「B及びC」判定となった実績について、来年度中に改善されるよう、委員会や部会等に依頼するとの報告がなされた。

(4) 点検・評価のWEB情報公開について

1) 平成29年度自己点検評価報告書（平成28年度・平成29年度 年度計画 活動経過・結果報告書）

2) 運営諮問会議報告書（平成28年度・平成29年度 年度計画）

点検評価部会長から口頭により、平成 29 年度自己点検報告書と運営諮問会議報告書は本校 HP に掲載済みであるとの報告があった。また、平成 30 年度の報告書も速やかに掲載すると
の報告もあった。

(5) 点検評価・改善活動について

1) 平成 30 年度の機関別認証評価受審の報告について

点検評価部会長から机上配付資料(補足資料 3)に基づき、11/5(月)~11/6(火)に行われた機関別認証評価実施検査における指摘事項(優れた点、改善を要する点)に関する報告があり、特に改善を要する点は、次年度解消を求めているとの説明があった。

2) 平成 29 年度の本会議時に「平成 30 年度内に、「平成 30 年度入学生」が、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れに合致しているかどうかの検証をする」との意見について

点検評価部会長から机上配付資料に基づき、平成30年度新入学生のAPに関するアンケートの結果報告があった。

(6) その他

- ・ 自己点検評価・改善委員会実施要項(鈴鹿高専 自己点検評価基準)について 資料 4

点検評価部会長から資料 4 に基づき、8 月に改正した自己点検評価・改善委員会実施要項に関する本校独自の自己点検評価基準の説明があった。

4. 複合型生産システム工学プログラム推進部会 (JABEE 部会) 報告

(1) 平成 30 年度点検評価・改善活動について

専攻科長から口頭により、点検評価部会との連携から認証評価の受審に望んだこと、各種アンケートの実施をしたことなど、諸活動に関する報告があった。

(2) 平成 30 年度達成度評価アンケート調査について

資料 5-1

専攻科長から資料 5-1 に基づき、達成度評価アンケート調査結果に関する説明があった。

(3) 平成30年度 専攻科修了予定者および学科卒業予定者への満足度評価アンケート調査について

資料 5-2

専攻科長から資料 5-2 に基づき、満足度評価アンケート調査に関する説明があった。

(4) その他

特に報告事項等なし。

5. その他

- ・ 平成 31 年度自己点検評価__外部評価__アンケート等の実施計画表を教職員ページの提供ファイル(資料集)に掲示することとなった。
- ・ 次期中期目標・中期計画及び各年度における年度計画も教職員ページの提供ファイル(資料集)に掲示することとなった。

平成30年度「教務指針」

1. 教務に係る規則等(教員手帳掲載事項)

2. 答案の保管要領

保管方法について、別途連絡する。

3. 教務関係確認事項

(1) 学習・教育到達目標の周知について

各学科及び複合型生産システム工学に係る学習・教育到達目標は、年度始めに必ず学級担任等から全学生へ周知するものとする。

(2) シラバスの周知について

授業担当教員は当該授業科目にかかるシラバスの内容を第1回目の授業の際に学生に周知するものとする。

(3) 中間試験、定期試験の実施について

中間試験、定期試験では以下のことに留意し、また、学生に周知・徹底するものとする。

- ① 試験当日の出題者の病気や事故等に備えるため、試験問題はできる限り前もって準備して学生課教務係に託し、当日教務係で受領して実施するように努める。
- ② 複数のクラスで同時に試験をする科目については、出題者等は試験開始後に各クラスを巡回し説明を行う。
- ③ 筆記用具、貴重品及び指定された物以外は持ち込みを禁止する。携帯電話は電源を切り、鞆に入れる。
- ④ 机の中には何も入れないように指導し、確認すること。机の上に置いて良いものは筆記用具・消しゴム・指定された物のみとし、筆箱は置かせないこと。机・壁に落書きがある場合は試験開始までに消させること。
- ⑤ 試験開始のチャイムで解答を始めさせるものとする。
- ⑥ 50分試験については試験開始後30分、90分試験については60分を経過後の試験室への入室は認めない。
- ⑦ 不審な振る舞いが見えた時は、本人に静かに注意する。不正行為の証拠が歴然たる時は、直ちに退席させ、試験終了後、その旨学級担任及び教務係へ連絡する。不正発覚後は、当該科目以後に実施する試験科目の受験は許可せず、原則として自宅謹慎させる。
なお、不正行為の取扱いは、「学業成績評価基準」第7条によるものとする。
- ⑧ 試験中に急に発病した者がいた場合は学生課学生支援係へ行くよう指示する。この学生が保健室等で受験を希望する場合は、学級担任又は教務主事補が保健室等で監督に当たるものとする。なお、試験中にトイレへ行きたい旨の申し出があった場合は、状況に応じ許可するものとする。
- ⑨ 試験開始後は、50分試験では試験終了まで、90分試験では60分を経過しないうちは退席させない。また、トイレ等により退席した場合、90分試験については60分を経過している場合は、試験室への再入室を認めない。なお、退席する場合は、周りの迷惑にならないよう指導する。退室者については他の教室の迷惑にならないように、学生控室（別途指定）で学習するように指導する。

- ⑩ 試験終了後、出席学生数と答案枚数があるかを確認するものとする。
- ⑪ 中間試験の時間数は授業時数に含め、定期試験は授業時数に含めない。
- ⑫ 非常勤講師担当科目の試験監督をする教員は、当該試験終了後、速やかに教務係へ答案を返すものとする。
- ⑬ 試験監督の際は、公正に試験が実施されるよう常に注意を払い、本・パソコン等は持ち込まないこと。
- ⑭ 追認試験の監督要領も、上記要領に準ずるものとする。
- (4) 中間試験、定期試験の試験問題の作成と管理にあたっては、以下のことに留意するものとする。
 - ① 試験の設問ごとに、「知識・能力」の文言に続けて、シラバスに記載した「授業計画」の到達目標の番号を必ず明記する。
 - ② 試験の設問ごとに配点を明記する。
 - ③ 出題された問題に対しては模範解答を作成しておく。
 - ④ 試験問題作成・保存中は必ず自室に施錠するなどして、厳重に管理するものとする。
- (5) 中間試験、定期試験の答案返却では、以下のことに留意するものとする。

試験終了後の最初の授業で、答案は一旦学生に返却し、学生自身による「知識・能力」の達成度の確認を行わせるものとする。
- (6) 学生が病気等により定期試験を受けられない場合の診断書又は証明書の取扱いについて
 - ① 学生が定期試験を病気等で欠席する場合、担任、専攻科長補佐は学生に診断書又は証明書を提出させ、教務主事が当該事実を認めた場合に限り、担任、専攻科長補佐は欠席する試験科目の担当教員に連絡し、追試験の措置について依頼を行う。
 - ② 学生から提出された診断書又は証明書は、追試験の対象となる授業科目名と併せて担任、専攻科長補佐から教務係へ提出する。
 - ③ 中間試験の場合も同様の措置とする。
 - ④ インフルエンザ等で多くの学生が試験の欠席をしたような場合は、追試験の管理を教務係で行うこととする。
- (7) 再試験の取扱いについて

授業担当教員は、教科指導の一環として再試験を行うことができるが、予めシラバスに記載しておくものとする。また、原則として、第3学年以上の学年末試験（前期で終わる科目にあっては前期末試験も含む。）では再試験を行わないものとする。
- (8) 再試験、追認試験における留意点について
 - ① 再試験、追認試験の実施に際しては、事前に学生をよく指導した上で試験に臨ませよう努めるものとする。
 - ② 事前指導（補講等）を行った場合は、そのエビデンスを何らかの形で残すものとする（実施日、実施内容等のメモなど）。
 - ③ 再試験は、試験期間（試験開始日の2週間前から試験終了日）中は行わないこととする。
- (9) 選択科目の履修の変更について
 - ① 当初の履修計画に履修科目を追加する場合は、学生が教務係へ申し出ることとする。

また、同時開講科目については、人数調整を実施していない科目のみ変更できるものとし、人数調整を実施した科目については、履修の変更はできないものとする。

- ② 履修申請した授業科目を辞退する場合は、学生が教務係へ申し出ることとする。
- ③ 上記①②の申し出期限は、前期開設科目及び通年科目は4月下旬、後期開設科目は10月中旬とする。

(10) 「授業とみなす学校行事」の取り扱いについて

本校の学習・教育到達目標達成のために必要な行事を「授業とみなす学校行事」とし、正規の授業の一環として授業の中に組み込むものとする。「当該日の授業科目」は授業時数としてカウントし、これらの行事を正当な理由（公欠に準ずる理由）なく欠席した場合は、「当該日の授業科目」を欠席したものとして取り扱う。また、「授業とみなす学校行事」を欠席した場合、学級担任は欠席者氏名を教務係へ報告し、教務係から当該日の授業担当教員へ欠席の連絡をするものとする。

「授業とみなす学校行事」

- ・新入生合宿研修（4月・第1学年）
- ・学外研修（4月・第2学年）
- ・学外研修（10月・第1学年）
- ・研修旅行（10月・第2学年）
- ・合同業界説明会、合同大学説明会（11月予定）
- ・学習到達度試験（実施時期未定）
- ・工場見学旅行（12月・第4学年）
- ・卒業研究発表会（1月・第4、5学年）

(11) 授業の振替及び代講措置について

授業は原則として休講を認めない。原則として、他の授業との振替を行い、やむを得ない場合は課題等による代講を検討する。水曜日7～8限など空いている時間帯に振り替えてもよい。振替及び代講は事前に学生への連絡を行うとともに、所定の様式に記載して教務係へ届けるものとする。

(12) 授業中の学生指導について

授業中、授業妨害に類するような言動をする学生については、まず口頭で十分注意・指導を行うものとする。それにもかかわらず態度が改まらず、授業の続行が妨げられると判断した場合は、教室外に出させる等の処置をしてもよいものとする。その場合、出欠は「早退」とする。また、授業終了後に、その旨を担当（非常勤講師にあっては教務係）等へ連絡するものとする。

授業中の携帯電話・ミュージックプレーヤ・ゲーム機の使用の禁止を厳しく指導し、必要なら授業時間中機器を教卓上に保管する等、全教員が態度を同じくして臨むこととする。

(13) 公欠許可基準について

公欠は「公的理由等による欠席の取扱基準」により許可基準が示されているが、「学習時間の保証」という考え方の下、厳格な対応をとるものとする。個々については教務主事が判断するが、以下の項目については原則として公欠を許可しない。

- ・クラブの試合準備のための手伝い(高専体育大会を除く)や応援等
- ・平日の特別活動や卒業研究を除く授業時間内の留学生や5年生の地域交流活動等
- ・大学編入学等に係る大学見学

就職・進学に係る事項(会社主催の懇談会、就職・大学編入学試験前後の日の取扱い、自由

応募に関する説明会や試験など)は、可能な限り、事項を証明できる書類や学科長の意見書を添付するものとする。

学会発表、クラブ活動及びプロジェクト活動に関する公欠は、公欠願に担任の押印の他にクラブ部長等の押印で事実確認をするものとし、当該日の 5 日前までに提出するものとする。また、クラブ部長及びプロジェクト責任者は、教員の提出する「学生のクラブ活動等に係る公欠について」を当該日の 5 日前までに提出するものとする。

(14) オフィスアワーズについて

教員は原則として週 1 回（16:00～17:00）オフィスアワーズを設けなければならない。

オフィスアワーズの実績は、年度末に教務係へ提出するものとする。

(15) 台風時の授業の取扱いについて

台風が本県を通過するおそれがあり、気象官署から鈴鹿市に暴風警報が発表された場合、学生が在籍している時は授業等を中止し、待機、下校又は避難等を指示するものとする。また、朝 6 時の時点で鈴鹿市に暴風警報が発表されている場合は、同日は臨時休業とし、授業予備日等に振替授業を行うものとする。

平成31年度「教務指針」

1. 教務に係る規則等(教員手帳掲載事項)

2. 答案の保管要領

保管方法について、別途連絡する。

3. 教務関係確認事項

(1) 学習・教育到達目標の周知について

各学科及び複合型生産システム工学に係る学習・教育到達目標は、年度始めに必ず学級担任等から全学生へ周知するものとする。

(2) シラバスの周知について

授業担当教員は当該授業科目にかかるシラバスの内容を第1回目の授業の際に学生に周知するものとする。

(3) 授業の実施について

① 授業の実施にかかる学生の入退室は、以下のとおり取扱うものとする。

・1時限45分ごとに、授業開始後の入室は20分経過までを遅刻、以降は欠席として取扱う。
また、授業終了20分前までの退室は欠席、以降は早退として取扱う。

② 授業担当教員は、教科指導の一環として学外で授業を行うことができるものとし、学外授業（デザイン基礎を含む）を実施する場合、授業担当教員は事前に「学外授業届出書」を校長に届け出ることとする。

(4) 中間試験、定期試験の実施について

中間試験、定期試験では以下のことに留意し、また、学生に周知・徹底するものとする。

① 試験当日の出題者の病気や事故等に備えるため、試験問題はできる限り前もって準備して学生課教務係に託し、当日教務係で受領して実施するように努める。

② 複数のクラスで同時に試験をする科目については、出題者等は試験開始後に各クラスを巡回し説明を行う。

③ 筆記用具、貴重品及び指定された物以外は持ち込みを禁止する。携帯電話は電源を切り、鞆に入れる。

④ 机の中には何も入れないように指導し、確認すること。机の上に置いて良いものは筆記用具・消しゴム・指定された物のみとし、筆箱は置かせないこと。机・壁に落書きがある場合は試験開始までに消させること。

⑤ 試験開始のチャイムで解答を始めさせるものとする。

⑥ 試験時間は、50分試験又は90分試験とする（延長は認めない）。

⑦ 50分試験、90分試験いずれも試験開始後20分経過後の試験室への入室は認めない。

⑧ 不審な振る舞いが見えた時は、本人に静かに注意する。不正行為の証拠が歴然たる時は、直ちに退席させ、試験終了後、その旨学級担任及び教務係へ連絡する。不正発覚後は、当該科目以後に実施する試験科目の受験は許可せず、原則として自宅謹慎させる。

なお、不正行為の取扱いは、「学業成績評価基準」第7条によるものとする。

⑨ 試験中に急に発病した者がいた場合は学生課学生支援係へ行くよう指示する。この学生が保健室等で受験を希望する場合は、学級担任又は教務主事補が保健室等で監督に当たるものとする。

る。

- ⑩ 試験開始後は、50 分試験、90 分試験いずれも試験終了まで退席させない。なお、試験中にトイレへ行きたい旨の申し出があった場合は、許可するものとする。
- ⑪ 試験終了後、出席学生数と答案枚数があるかを必ず確認するものとする。
- ⑫ 中間試験の時間数は授業時数に含め、定期試験は授業時数に含めない。
- ⑬ 非常勤講師担当科目の試験監督をする教員は、当該試験終了後、速やかに教務係へ答案を戻すものとする。
- ⑭ 試験監督の際は、公正に試験が実施されるよう常に注意を払い、本・パソコン等は持ち込まないこと。
- ⑮ 追認試験の監督要領も、上記要領に準ずるものとする。
- (5) 中間試験、定期試験の試験問題の作成と管理にあたっては、以下のことに留意するものとする。
 - ① 試験の設問ごとに、「知識・能力」の文言に続けて、シラバスに記載した「授業計画」の到達目標の番号を必ず明記する。
 - ② 試験の設問ごとに配点を明記する。
 - ③ 出題された問題に対しては模範解答を作成しておく。
 - ④ 複数年次にわたり同じ試験問題を繰り返さないものとする。
 - ⑤ 試験問題作成・保存中は必ず自室に施錠するなどして、厳重に管理するものとする。
- (6) 中間試験、定期試験の答案返却では、以下のことに留意するものとする。

試験終了後の最初の授業で、答案は一旦学生に返却し、学生自身による「知識・能力」の達成度の確認を行わせるものとする。
- (7) 学生が病気等により定期試験を受けられない場合の診断書又は証明書の取扱いについて
 - ① 学生が定期試験を病気等で欠席する場合、担任、専攻科長補佐は学生に診断書又は証明書を提出させ、教務主事が当該事実を認めた場合に限り、担任、専攻科長補佐は欠席する試験科目の担当教員に連絡し、追試験の措置について依頼を行う。
 - ② 学生から提出された診断書又は証明書は、追試験の対象となる授業科目名と併せて担任、専攻科長補佐から教務係へ提出する。
 - ③ 中間試験の場合も同様の措置とする。
 - ④ インフルエンザ等で多くの学生が試験の欠席をしたような場合は、追試験の管理を教務係で行うこととする。
- (8) 再試験の取扱いについて

授業担当教員は、教科指導の一環として再試験を行うことができるが、予めシラバスに記載しておくものとする。また、原則として、第3学年以上の学年末試験（前期で終わる科目にあっては前期末試験も含む。）では再試験を行わないものとする。
- (9) 再試験、追認試験における留意点について
 - ① 再試験、追認試験の実施に際しては、事前に学生をよく指導した上で試験に臨ませるよう努めるものとする。
 - ② 事前指導（補講等）を行った場合は、そのエビデンスを何らかの形で残すものとする（実施日、実施内容等のメモなど）。
 - ③ 再試験は、試験期間（試験開始日の2週間前から試験終了日）中は行わないこととする。

(10) 選択科目の履修の変更について

- ① 当初の履修計画に履修科目を追加する場合は、学生が教務係へ申し出ることとする。
また、同時開講科目については、人数調整を実施していない科目のみ変更できるものとし、人数調整を実施した科目については、履修の変更はできないものとする。
- ② 履修申請した授業科目を辞退する場合は、学生が教務係へ申し出ることとする。
- ③ 上記①②の申し出期限は、前期開設科目及び通年科目は4月下旬、後期開設科目は10月中旬とする。

(11) 「授業とみなす学校行事」の取り扱いについて

本校の学習・教育到達目標達成のために必要な行事を「授業とみなす学校行事」とし、正規の授業の一環として授業の中に組み込むものとする。「当該日の授業科目」は授業時数としてカウントし、これらの行事を正当な理由（公欠に準ずる理由）なく欠席した場合は、「当該日の授業科目」を欠席したものとして取り扱う。また、「授業とみなす学校行事」を欠席した場合、学級担任は欠席者氏名を教務係へ報告し、教務係から当該日の授業担当教員へ欠席の連絡をするものとする。

「授業とみなす学校行事」

- ・新入生合宿研修（4月・第1学年）
- ・学外研修（4月・第2学年）
- ・学外研修（10月・第1学年）
- ・研修旅行（10月・第2学年）
- ・合同業界説明会（10月予定）
- ・学習到達度試験（実施時期未定）
- ・工場見学旅行（12月・第4学年）
- ・卒業研究発表会（1月・第4，5学年）

(12) 授業の振替及び代講措置について

授業は原則として休講を認めない。原則として、他の授業との振替を行い、やむを得ない場合は課題等による代講を検討する。水曜日7～8限など空いている時間帯に振り替えてもよい。振替及び代講は事前に学生への連絡を行うとともに、所定の様式に記載して教務係へ届けるものとする。

(13) 授業中の学生指導について

授業中、授業妨害に類するような言動をする学生については、まず口頭で十分注意・指導を行うものとする。それにもかかわらず態度が改まらず、授業の続行が妨げられると判断した場合は、教室外に出させる等の処置をしてもよいものとする。その場合、出欠は「早退」とする。

また、授業終了後に、その旨を担当（非常勤講師にあっては教務係）等へ連絡するものとする。

授業中の携帯電話・ミュージックプレーヤ・ゲーム機の使用の禁止を厳しく指導し、必要なら授業時間中機器を教卓上に保管する等、全教員が態度を同じくして臨むこととする。

(14) 公欠許可基準について

公欠は「公的理由等による欠席の取扱基準」により許可基準が示されているが、「学習時間の保証」という考え方の下、厳格な対応をとるものとする。個々については教務主事が判断す

るが、以下の項目については原則として公欠を許可しない。

- ・クラブの試合準備のための手伝い(高専体育大会を除く)や応援等
- ・平日の特別活動や卒業研究を除く授業時間内の留学生や5年生の地域交流活動等
- ・大学編入学等に係る大学見学

就職・進学に係る事項(会社主催の懇談会、就職・大学編入学試験前後の日の取扱い、自由応募に関する説明会や試験など)は、可能な限り、事項を証明できる書類や学科長の意見書を添付するものとする。

クラブ活動及びプロジェクト活動に関する公欠は、クラブ部長及びプロジェクト責任者が「学生のクラブ活動等に係る対外試合参加、公欠について」を当該日の5日前までに提出するものとする。また、学生が試合等当日に参加しなかった場合、クラブ部長及びプロジェクト責任者は、試合等終了後速やかに、当該学生のクラス出席番号、氏名を教務係に連絡するものとする。

学会発表に関する公欠は、公欠願に担任の押印の他に担当教員等の押印で事実確認をするものとし、当該日の5日前までに提出するものとする。

(15) オフィスアワーズについて

教員は原則として週1回(16:00～17:00)オフィスアワーズを設けなければならない。

オフィスアワーズの実績は、年度末に教務係へ提出するものとする。

(16) 台風時の授業の取扱いについて

台風が本県を通過するおそれがあり、気象官署から鈴鹿市に暴風警報が発表された場合、学生が在校している時は授業等を中止し、待機、下校又は避難等を指示するものとする。また、朝6時の時点で鈴鹿市に暴風警報が発表されている場合は、同日は臨時休業とし、授業予備日等に振替授業を行うものとする。

令和元年度 第1回 点検評価部会 議事録

日 時：令和元年8月5日（月） 11：00～12：10

場 所：会議室B

出席者：■■■■部会長，■■■■副部会長，■■■■(M)，■■■■(E)，■■■■(I)，■■■■(I)，■■■■(C)，
■■■■(G)，■■■■（総務課），■■■■（学生課）各部会員
■■■■複合型生産システム工学プログラム推進部会長

欠席者：■■■■(S)

陪 席：■■■■総務課長補佐，■■■■総務企画係長

議事

1. 本年度の活動についての確認

■■■■部会長より，本年度の活動について，事項書に基づき説明があった。

2. 鈴鹿高専の目的の周知に関するアンケート調査（教職員・非常勤講師）

■■■■部会長より，鈴鹿高専の目的の周知に関するアンケート調査について，事項書に基づき説明があった。担当した■■■■教員から，ほぼ全員の約120人から回答があり，評価は5段階中，平均4.4であった旨報告があった。また今後は，非常勤講師についてもQRコードから，ネット上で回答してもらいたいとの発言があった。

3. 学生との意見交換会

■■■■部会長より，学生との意見交換について，事項書に基づき説明があった。

意見交換会で提出された意見等については，各科会議等で審議のうえ関係主事に報告し，関係主事が全学科分をとりまとめ，主事補会議で対応を検討し議事録に記録した後，年度内に対応結果を学生に報告できるようにすることになった。

4. 答案保管状況のチェック

■■■■部会長より，答案保管状況のチェックについて，事項書に基づき説明があった。

答案の保管は再試験についても行うこと。複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されないこと。同じ試験問題とは，8割以上が同じであることが目安であることを確認した。

5. 専攻科修了生上司へのアンケート調査

■■■■部会長より，専攻科修了生上司へのアンケート調査について，事項書に基づき説明があった。担当の■■■■教員からは，WEBで実施するアンケートについて，本校HPの掲載場所等について留意事項が説明された。

6. 運営諮問会議に向けた自己点検評価報告書作成

■■■■部会長より、運営諮問会議に向けた自己点検評価報告書作成について、事項書に基づき説明があった。第4期中期目標・中期計画に対して作成する自己点検評価報告書について、事項書のとおり担当、フォーマット、スケジュール等を確認した。

スケジュールについては、9月20日頃に■■■■補佐からチェックシートの作成依頼が関係各位にあるので、10月以降に各担当が自己評価書のチェックを行うことにより、11月7日以降の事項書のスケジュール案につながっていく旨の補足説明があった。

7. その他

次回の部会は、12月末に開催する。

令和元年度 第2回 教職員会議議事録

日 時 令和元年7月17日(水) 15時00分～15時58分

場 所 第3合併講義室

出席者 教職員会議構成員

欠席者 [REDACTED]
[REDACTED] 各教職員

【事項】

1. 副校長・主事からの報告

- (1) 副校長から、資料1-1に基づき説明があった。合同業界説明会について、第3学年の積極的な参加を募るため、担任には学生への周知について協力願いたいとの依頼があった。就職・進学体験集について、pdf化し学外からは見られないようPWを設定するなどして公開を検討しているとの報告があった。

・資料1-1「副校長報告」

- (2) 教務主事から、資料1-2に基づき説明があった。中間・定期試験について、毎年同じ試験問題としないこと、試験終了後は出席学生数と答案枚数があるかを必ず確認すること、試験監督中は監督業務に集中するよう依頼があった。第3学年以上については試験中でも私服も可となったとの報告があった。

・資料1-2「教務主事報告」

- (3) 学生主事から、資料1-3に基づき説明があった。SNSでの本校学生の発言について、今回については処分の対象にはならないが、今後同じような問題が起きた際にどこまで対応するかが課題になるとの報告があった。地域住民からのクレームについて、教室の掲示装置で注意喚起をしたら改善されたとの報告があった。

・資料1-3「学生主事報告」

- (4) 寮務主事から、資料1-4に基づき説明があった。女子寮の消灯後安全点検について、女性の教員が泊まる場合はご協力願いたいとの依頼があった。夏季休業中の寮生の自転車について、学外に放置せず有料の駐車場を利用するよう、前期末のクラスでのガイダンスにて周知にご協力願いたいとの依頼があった。

・資料1-4「寮務主事報告」

(5) 研究主事から、資料 1-5 に基づき説明があった。科研費合宿と研究会に積極的に参加すること及び査読を希望する場合はできるだけ早く申請書を準備するよう依頼があった。

・資料 1-5「研究主事報告」

■教員より、試験中の注意事項を見直すきっかけとなった試験についての情報共有に関して意見があり、■教務主事より、具体的なことについては執行部で現在検討中である旨説明があった。また、前回の教職員会議が 18 時まで延長された件について、時間外勤務にあたるのではとの質問があり、事務部長より、時間外手当の対象になるとの回答があった。

■教員より、国体フェスのカウントダウンボードについて、機械工学科・電気電子工学科・電子情報工学科の学生と教員が共同で制作したとの補足説明があった。

2. 事務部からの報告

総務課長から、喫煙場所の変更について説明があった。7 月から事務・教養棟屋上に喫煙場所を仮設置することとなり、高専祭やクラブ等で学外者が来る場合は、全面禁煙にて対応することとなった旨報告があった。

3. その他

■教員から、資料 3 に基づき説明があった。入学試験説明会について、入試広報室員が中心になるかと思うが各科にて対応いただきたいとの依頼があった。リーフレットや募集要項に載っていない情報については公にはできないため、説明の際には注意していただきたい旨説明があった。

・資料 3「入試広報室よりお願い」

■技術長から、教育研究支援センター技術支援取扱要項の一部改正について報告があった。変更点としては、教育研究活動支援要請書について押印を廃止したこと、メールでやりとりをすること、支援センターの班構成での対応となるため班長に直接提出するようにしたとの報告があった。

総務課■人事給与係長より、更新された教職員証をまだ取りに来ていない教職員は、総務課人事給与係まで、認印と古い教職員証を持ってくるよう依頼があった。

以 上

次回教職員会議は、令和元年 10 月 16 日(水) 15:00-16:30 に開催予定。

令和6年度第1回教務委員会資料

令和6年度 第1回教務委員会

令和6年4月4日(木)

教務主事



(電子情報工学科)

1. 本校の使命・教育理念・教育目標等の周知
2. 教育および授業計画に関連する確認事項
3. R5の進級状況とR6のクラス体制
4. R6の教務関連の組織体制と実施・検討課題

鈴鹿工業高等専門学校基本理念

(教員手帳p.1)

鈴鹿工業高等専門学校は、建学の精神を踏まえ、未来を展望し、次のとおり教育理念と養成すべき人材像を定める。

使命

本校は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として我が国の産業の発展を支え、**グローバルに活躍する人づくり**と、**新しい価値の創造**により広く地域と社会の発展に貢献する。

教育理念

- (1) 広い視野から価値判断ができ、**技術者精神を備えた豊かな人間性**を涵養する。
- (2) 科学技術に関する**高い専門知識と技術**に基づく深い洞察力と**実践力**を育成する。
- (3) 未知の問題に果敢に挑み、**新たな価値を創造する力**を育てる。
- (4) 心身を鍛え、己を確立し、**自ら未来を切り拓く力**を育てる。

養成すべき人材像

- (1) 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材
- (2) 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材
- (3) 課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材
- (4) コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材

鈴鹿工業高等専門学校教育目標

(教員手帳pp.1-3)

○教育に関する目標

<学科教育>

教育方針
教養教育の目標
専門教育の共通目標
機械工学科の目標
電気電子工学科の目標
電子情報工学科の目標
生物応用化学科の目標
材料工学科の目標

<専攻科教育>

教育方針
総合イノベーション工学専攻の
教育目標

<学習・教育到達目標>

○学生への支援に関する目標

鈴鹿高専における 『3つのポリシー(方針)』

ディプロマポリシー(DP)
カリキュラムポリシー(CP)
アドミッションポリシー(AP)

ホームページに掲載

学校案内



学校紹介



3つの方針

【機械工学科】ディプロマポリシー(DP)

鈴鹿高専の(機械工学科)の学習・教育到達目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、本校第5学年修了時に所定の単位(全学年において修得した単位は、167単位以上、そのうち、一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上とする)を修得した学生に対して卒業を認定し、準学士の称号を授与する。

(A) 技術者としての姿勢

＜視野＞自己と世界の関係を理解し国際的素養を身につけ、地球規模で物事を眺めることができる能力。

- ・ 教育課程系統図で定めた＜視野＞に関連する外国語を含む人文・社会系リベラルアーツ科目から、必修及び選択必修科目を含め43単位以上を修得すること。

＜技術者倫理＞生産に生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる能力。

- ・ 「倫理・社会」に加え、「卒業研究」「創造工学」の単位を修得すること。

＜意欲＞習得した知識・能力を超える問題に備えて、自ら継続的・自律的に学習できる。

- ・ 「卒業研究」「創造工学」の単位を修得すること。

(B) 基礎・専門の知識とその応用力

＜基礎＞実践的技術者に必要な数学、自然科学及び情報技術の知識を習得し、それを活用できる能力。

- ・ 教育課程系統図で定めた＜基礎＞に関連する自然科学系リベラルアーツおよび専門科目から、必修及び選択必修科目を含め43単位以上を修得すること。

＜専門＞機械主要分野の専門基礎知識、および機械分野の諸問題解決に必要な専門知識・技術を習得し、地域・社会に貢献できる能力。

- ・ 教育課程系統図で定めた＜専門＞に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め68単位以上を修得すること。

＜展開＞習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる能力。

- ・ 「総合実習」「工学実験」「卒業研究」「創造工学」を修得すること。

(C) コミュニケーション能力

＜発表＞他者と協働し、自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に表現(記述・伝達・討論)できる能力。

- ・ 「国語IA」「国語IB」「国語II」「日本文学(留学生においては日本語教育IA)」「総合実習」「創造工学」「卒業研究」の単位を修得すること。

＜英語＞英語による基本的なコミュニケーションができる能力。

- ・ 教育課程系統図で定めた＜英語＞に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め19単位以上を修得すること。

また、**機械工学科の特色**としては、伝統的な機械工学の基礎から応用に加えて、コンピューターを活用した設計能力の育成、マイコン制御から数値解析プログラミングまで、実践的かつ創造的なロボットテクノロジー教育にも力を入れている。

【機械工学科】カリキュラムポリシー(CP)

機械工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラム・ポリシーを定め、**教育課程系統図**に示しています。

機械工学を理解する幅広い知識を養うために、5年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、実践的・創造的技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観、継続的・自律的に学習する能力を身につけた人材の育成を行います。

分野横断的共通科目として人文社会(国語、歴史、地理、政治)、英語、数学、自然科学(物理、化学、地球生命学)、情報系科目(情報処理、情報セキュリティ概論)の基礎教育を行っています。

機械の設計や開発を行う技術者となるために必要であり、基盤となる材料系(材料力学、材料学)、熱・流体系(熱力学、水力学)、運動系(機械運動学、機械力学)といった機械工学の専門知識を身につけるカリキュラムに加えて、ロボットやIoTを活用したシステムの構築や導入を行うために必要となる実践的かつ創造的なロボットテクノロジー科目(機械工学実習、メカトロニクス演習、電気・電子回路、アクチュエータ工学、制御工学、数値解析など)を系統的に配置しています。また、ものづくりに必要とされる設計・製図(機械製図、機械設計製図、機械設計基礎、機械設計法)、加工(機械工作実習、機械工作法)の知識と技術を活用する課題解決型科目(総合実習、創造工学)を体系的に配置することで、次世代を担う機械系技術者に必要な能力を身につけられるようにします。第5学年では、学生自身が興味に合わせてデザイン可能な発展的な内容の科目(機械工学コース/メカトロニクスコース)を系統的に配置しています。

成績評価方法に関する方針

1. 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、定期試験・演習・レポートなどの結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
2. 実技・実験・実習・演習および創造工学などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
3. 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

成績の評価および単位認定基準

上記カリキュラムを構成している各科目の学修成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載されている評価方法に沿って総合的に評価します。成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定します。成績評価の評語は次の基準によるものとします。

評価	点数
優	80点以上
良	65点以上80点未満
可	60点以上65点未満
不可	60点未満

【学科】アドミッションポリシー(AP)

1. 求める入学志願者像

- ・ 中学における学習内容をしっかりと理解している人
- ・ 数学や理科に興味を持ち、科学の発展に夢を持っている人
- ・ 何事にも積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人
- ・ 他人を思いやり、協調していける人

2. 入学者選抜方針及び選抜の方法

本校では、「世界に羽ばたく創造的エンジニア」の育成を目的とし、その高い可能性を持った学生の選抜を基本とします。

入学者の選抜は、多様な人材を選抜するため、「推薦による選抜」と「学力による選抜」及び「帰国子女特別選抜」を行います。

推薦選抜においては、中学校における成績を評価するとともに、自然科学や科学技術に対する興味、工学を学ぶ意欲、生徒会活動・課外活動・ボランティア活動などの経験を通して育まれた協調性、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力などを、面接結果を含め総合的に評価し、知徳体にバランスのとれた学生を選抜します。

学力選抜においては、実践的・創造的技術者教育に必要な一般科目と専門科目を十分理解できる学生を選抜するため、その基礎となる学力の試験及び調査書の合計点を評価して選抜します。帰国子女特別選抜においては、作文と面接も評価して選抜します。

1. 本校の使命・教育理念・教育目標等の周知
2. 教育および授業計画に関連する確認事項
3. R5の進級状況とR6のクラス体制
4. R6の教務関連の組織体制と実施・検討課題

令和6年度行事予定

4月8日(月)	入学式, 写真撮影(1年), オリエンテーション
4月9日(火)	身体測定, 写真撮影(1年以外)
4月10日(水)	授業開始, 学力テスト(1,2年), 第1回TOEIC-IP

4月27日(土)～5月5日(日)	ゴールデンウィークは9連休
5月6日(月)	授業実施日(こどもの日 振替休日)
6月5日(水)	前期中間授業予備日
7月15日(月)	授業実施日(海の日)
8月1日(木)	前期末授業予備日
8月9日(金)	前期末試験予備日
11月26日(火)	後期中間授業予備日
2月5日(水)	学年末授業予備日
2月14日(金)	学年末試験予備日

前期

	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週
月	4/1	4/8	4/15	4/22	4/29	5/6	5/13	5/20	5/27	6/3	6/10	6/17	6/24	7/1	7/8	7/15	7/22	7/29	8/5	8/12	8/19
	入学式・オリエンテーション・コン	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
火	4/2	4/9	4/16	4/23	4/30	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23	7/30	8/6	8/13	8/20
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
水	4/3	4/10	4/17	4/24	5/1	5/8	5/15	5/22	5/29	6/5	6/12	6/19	6/26	7/3	7/10	7/17	7/24	7/31	8/7	8/14	8/21
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
木	4/4	4/11	4/18	4/25	5/2	5/9	5/16	5/23	5/30	6/6	6/13	6/20	6/27	7/4	7/11	7/18	7/25	8/1	8/8	8/15	8/22
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
金	4/5	4/12	4/19	4/26	5/3	5/10	5/17	5/24	5/31	6/7	6/14	6/21	6/28	7/5	7/12	7/19	7/26	8/2	8/9	8/16	8/23
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
土	4/6	4/13	4/20	4/27	5/4	5/11	5/18	5/25	6/1	6/8	6/15	6/22	6/29	7/6	7/13	7/20	7/27	8/3	8/10	8/17	8/24
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
日	4/7	4/14	4/21	4/28	5/5	5/12	5/19	5/26	6/2	6/9	6/16	6/23	6/30	7/7	7/14	7/21	7/28	8/4	8/11	8/18	8/25
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21

後期

第2学年研修旅行

	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週
月	9/30	10/7	10/14	10/21	10/28	11/4	11/11	11/18	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23	12/30	1/6	1/13	1/20	1/27	2/3	2/10	2/17
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
火	10/1	10/8	10/15	10/22	10/29	11/5	11/12	11/19	11/26	12/3	12/10	12/17	12/24	12/31	1/7	1/14	1/21	1/28	2/4	2/11	2/18
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
水	10/2	10/9	10/16	10/23	10/30	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18	12/25	1/1	1/8	1/15	1/22	1/29	2/5	2/12	2/19
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
木	10/3	10/10	10/17	10/24	10/31	11/7	11/14	11/21	11/28	12/5	12/12	12/19	12/26	1/2	1/9	1/16	1/23	1/30	2/6	2/13	2/20
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
金	10/4	10/11	10/18	10/25	11/1	11/8	11/15	11/22	11/29	12/6	12/13	12/20	12/27	1/3	1/10	1/17	1/24	1/31	2/7	2/14	2/21
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
土	10/5	10/12	10/19	10/26	11/2	11/9	11/16	11/23	11/30	12/7	12/14	12/21	12/28	1/4	1/11	1/18	1/25	2/1	2/8	2/15	2/22
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
日	10/6	10/13	10/20	10/27	11/3	11/10	11/17	11/24	12/1	12/8	12/15	12/22	12/29	1/5	1/12	1/19	1/26	2/2	2/9	2/16	2/23
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21

複数年次にわたり同じ試験問題を繰り返さないものとする。(教員手帳p.70 (5)④)

Q21. 試験問題の再利用について、どの程度の内容が類似している場合に「再利用」と判断され得るのか。また、再利用の時期が相当程度離れている場合でも、同一の試験問題を使っていることが確認された場合は「再利用」と判断されるのか。

A21. 試験問題の再利用に関しては、試験問題の内容及び期間のいずれの観点についても、学生の達成度を適切に測定する上で懸念があると認められる場合に指摘することとしています。なお、試験問題のサンプル調査では前年度と前々年度の定期試験、再試験、追試験、単位認定試験の問題を提出していただき、何れか2つ以上の試験において80%以上の内容が同一と認められる場合に、同一の試験問題を使用していると判断します。形式的な同一性ではなく、実質的な内容の同一性について判断します。

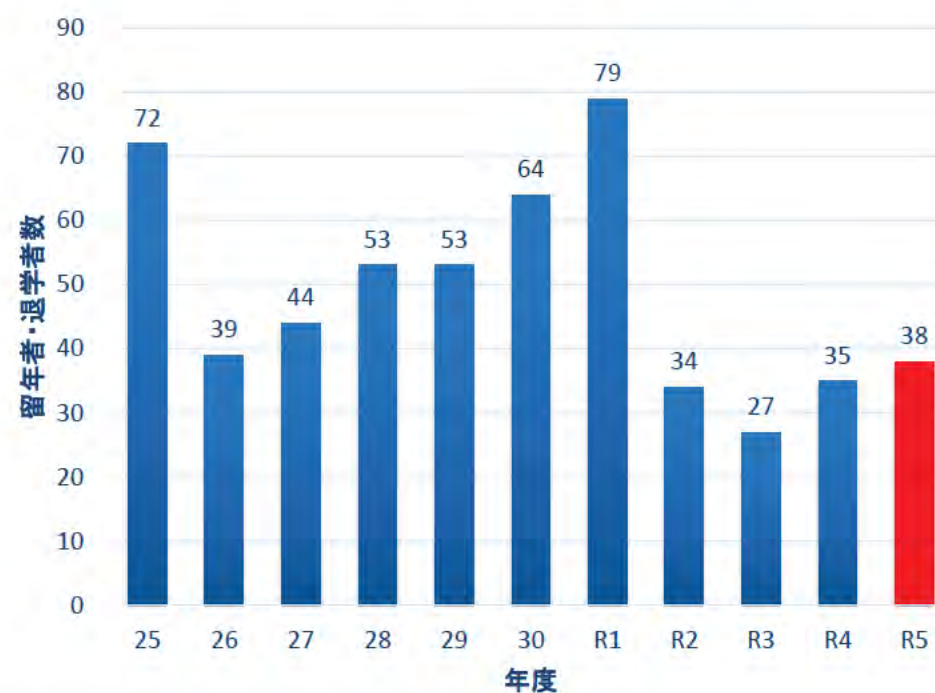
いずれにせよ、基準5-6及び基準6-6は、試験問題の再利用の事実が確認されたことのみによって判断するものではないことにご留意ください。

(平成7年度以降の高等専門学校機関別認証評価に関するQ&A p.8)

1. 本校の使命・教育理念・教育目標等の周知
2. 教育および授業計画に関連する確認事項
3. R5の進級状況とR6のクラス体制
4. R6の教務関連の組織体制と実施・検討課題

令和5年度の留年者・退学者数とその変遷

学年	留年者	退学者
1年	0	2
2年	6	1
3年	11	5
4年	10	2
5年	1	0
合計	28	10



年度途中 退学者 2名
 卒業判定・修了認定 否認定者 23名(内 休学者 8名)
 追認試験 不合格者 13名

学習(学修)サポート

学修支援室より名称変更

学修支援員: ■■■■■ (I科OB), 他に学生TAを計画
曜日:

月曜日 16:00-18:00

火曜日 16:00-18:00

水曜日 14:30-17:00

場所: イノベーション交流プラザ2F サイエンス教育支援室
数学の支援(学生TA)と統合・整理(予定)

令和6年度 クラス人数

(休学者9名を含む)

学年	1年	2年	3年	4年	5年
M	44(6)	44(7)	50(2)	37(2)	42(3)
E	42(7)	44(6)	44(3)	39(5)	38(4)
I	46(8)	44(5)	40(11)	40(4)	35(4)
C	44(30)	42(25)	44(26)	45(33)	37(22)
S	43(24)	43(22)	41(24)	38(17)	41(16)

(休学者2名を含む)

専攻	1年	2年
A	30(4)	30(5)

計60(9)名

計1047(316)名

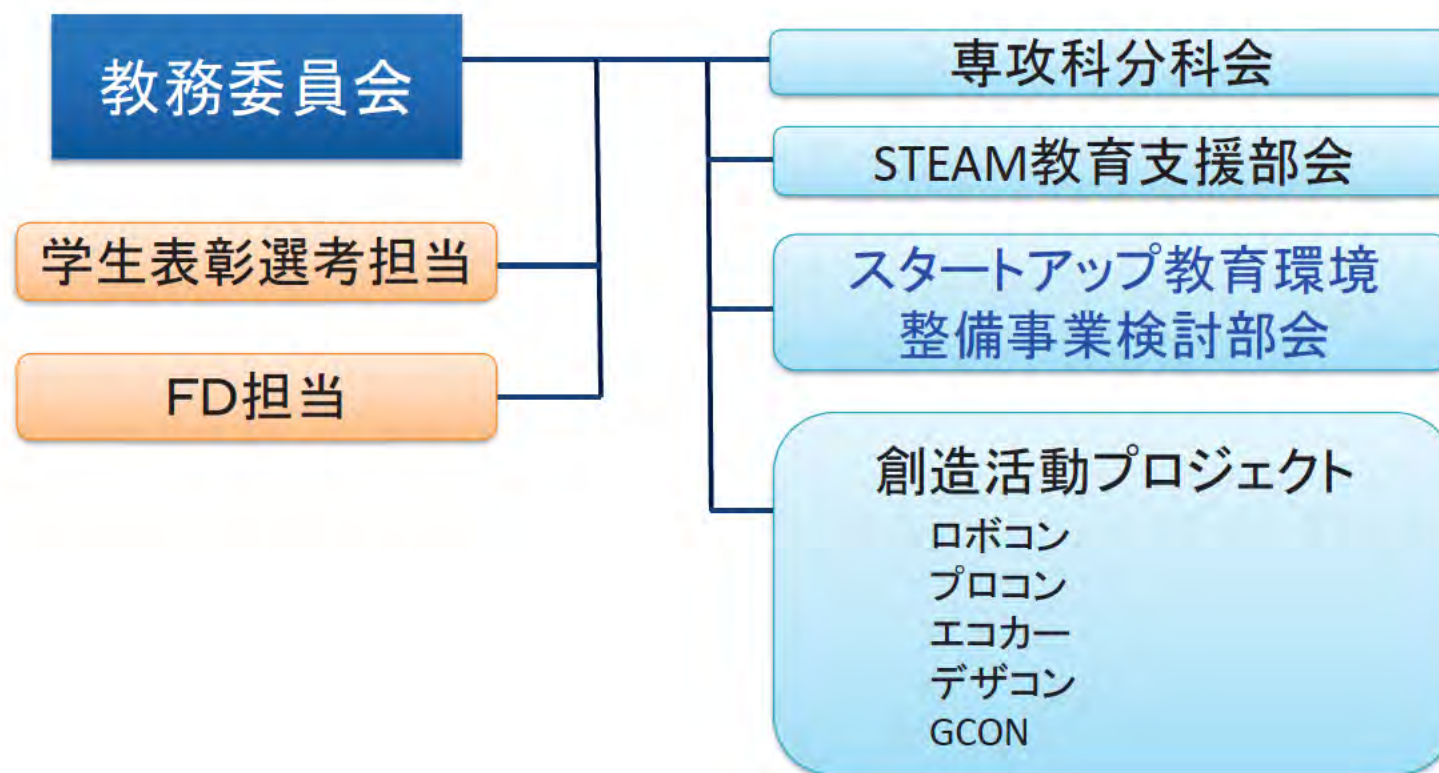
留学生: 7(3)名

1. 本校の使命・教育理念・教育目標等の周知
2. 教育および授業計画に関連する確認事項
3. R5の進級状況とR6のクラス体制
4. R6の教務関連の組織体制と実施・検討課題

教務主事補

教務主事	電子情報工学科	
教務主事補(副主事)	教養教育科	
教務主事補	機械工学科(専攻科)	
教務主事補	機械工学科	
教務主事補	電気電子工学科	
教務主事補	電子情報工学科	
教務主事補	生物応用化学科	
教務主事補	材料工学科	
教務主事補	電子情報工学科 (教養教育科担当)	
教務主事補	教養教育科	
教務主事補	教養教育科	

教務委員会組織

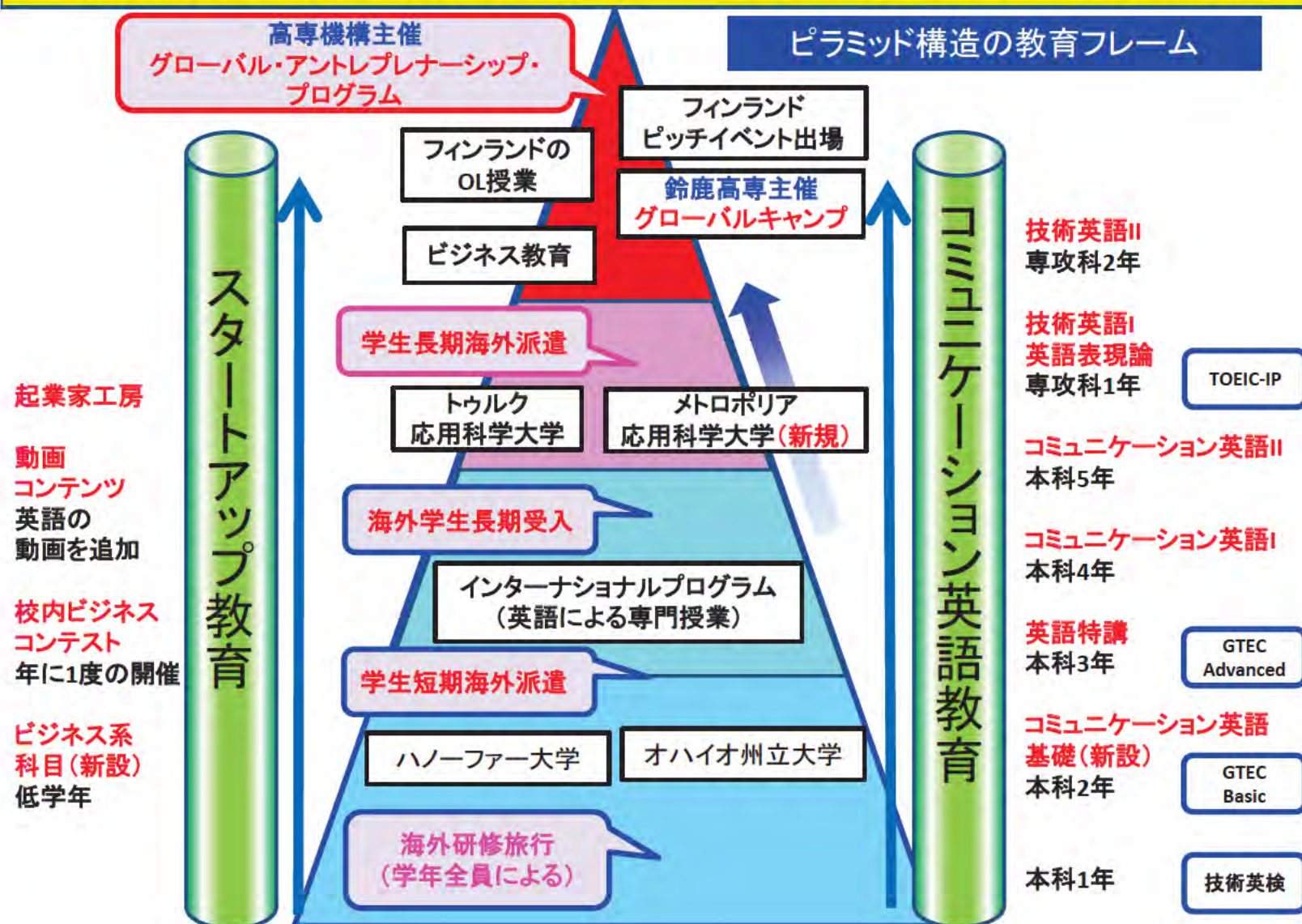


令和6年度実施および検討課題

- 教学マネジメント
- 教育の質保証
- R7認証評価に向けて
- 数理・DS・AI教育プログラム認定制度
- STEAM教育支援
- スタートアップ教育推進
- 半導体人材育成推進
- 学習(学修)サポート
- 教務システムの更新
- 創造工学「カーボンニュートラルの実現」
- 生成AI講座(鈴鹿高専テクノプラザ寄付講座)
- グローバルエンジニア育成事業

etc.

鈴鹿高専 世界で活躍するグローバルアントレプレナー育成事業



最後に

学生がよりよくなるように
教職員の協力・連携が必要です。

よろしくお願いいたします。

令和7年度第1回教職員会議資料

令和7年度 第1回教職員会議

令和7年4月4日(金)

教務主事



(電子情報工学科)

1. 本校の使命・教育理念・教育目標等の周知
2. 教育および授業計画に関連する確認事項
3. R6の進級状況とR7のクラス体制
4. R7の教務関連の組織体制と実施・検討課題

鈴鹿工業高等専門学校基本理念

(教員手帳p.1)

鈴鹿工業高等専門学校は、建学の精神を踏まえ、未来を展望し、次のとおり教育理念と養成すべき人材像を定める。

使命

本校は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として我が国の産業の発展を支え、**グローバルに活躍する人づくり**と、**新しい価値の創造**により広く地域と社会の発展に貢献する。

教育理念

- (1) 広い視野から価値判断ができ、**技術者精神を備えた豊かな人間性**を涵養する。
- (2) 科学技術に関する**高い専門知識と技術**に基づく**深い洞察力と実践力**を育成する。
- (3) 未知の問題に果敢に挑み、**新たな価値を創造する力**を育てる。
- (4) 心身を鍛え、己を確立し、**自ら未来を切り拓く力**を育てる。

養成すべき人材像

- (1) 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材
- (2) 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材
- (3) 課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材
- (4) コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材

鈴鹿高専における 『3つのポリシー(方針)』

ディプロマ・ポリシー(DP)
カリキュラム・ポリシー(CP)
アドミッション・ポリシー(AP)

ホームページに掲載

学校案内



学校紹介



3つの方針

【機械工学科】ディプロマ・ポリシー(DP)

鈴鹿高専の(機械工学科)の学習・教育到達目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、本校第5学年修了時に所定の単位(全学年において修得した単位は、167単位以上、そのうち、一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上とする)を修得した学生に対して卒業を認定し、準学士の称号を授与する。

(A) 技術者としての姿勢

＜視野＞自己と世界の関係を理解し国際的素養を身につけ、地球規模で物事を眺めることができる能力。

- ・——教育課程系統図で定めた＜視野＞に関連する外国語を含む人文・社会系リベラルアーツ科目から、必修及び選択必修科目を含め43単位以上を修得すること。

＜技術者倫理＞生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる能力。

- ・——「倫理・社会」に加え、「卒業研究」「創造工学」の単位を修得すること。

＜意欲＞習得した知識・能力を超える問題に備えて、自ら継続的・自律的に学習できる能力。

- ・——「卒業研究」「創造工学」の単位を修得すること。

(B) 基礎・専門の知識とその応用力

＜基礎＞実践的技術者に必要な数学、自然科学及び情報技術の知識を習得し、それを活用できる能力。

- ・~~教育課程系統図で定めた＜基礎＞に関連する自然科学系リベラルアーツおよび専門科目から、必修及び選択必修科目を含め43単位以上を修得すること。~~

＜専門＞機械主要分野の専門基礎知識、および機械分野の諸問題解決に必要な専門知識・技術を習得し、地域・社会に貢献できる能力。

- ・~~教育課程系統図で定めた＜専門＞に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め68単位以上を修得すること。~~

＜展開＞習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる能力。

- ・~~「総合実習」「工学実験」「卒業研究」「創造工学」を修得すること。~~

(C) コミュニケーション能力

＜発表＞他者と協働し、自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に表現(記述・伝達・討論)できる能力。

- ・~~「国語IA」「国語IB」「国語II」「日本文学(留学生においては日本語教育IA)」「総合実習」「創造工学」「卒業研究」の単位を修得すること。~~

＜英語＞英語による基本的なコミュニケーションができる能力。

- ・~~教育課程系統図で定めた＜英語＞に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め19単位以上を修得すること。~~

また、**機械工学科の特色**としては、伝統的な機械工学の基礎から応用に加えて、コンピューターを活用した設計能力の育成、マイコン制御から数値解析プログラミングまで、実践的かつ創造的なロボットテクノロジー教育にも力を入れている。

【機械工学科】カリキュラム・ポリシー(CP)

機械工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラム・ポリシーを定め、**教育課程系統図**に示している。

＜視野＞に関連した外国語を含む人文・社会系リベラルアーツ科目を配置する。

＜技術者倫理＞に関連した倫理・社会系科目に加え、「卒業研究」「創造工学」を配置する。

＜意欲＞に関連した「卒業研究」「創造工学」を配置する。

＜基礎＞に関連した自然科学系リベラルアーツおよび専門科目、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)に関する対象科目を配置する。

＜専門＞に関連した自然科学および専門科目を配置する。

＜展開＞に関連した「総合実習」「機械工学実験」「卒業研究」「創造工学」を配置する。

＜発表＞に関連した「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学(留学生においては日本語教育ⅠA)」「総合実習」「創造工学」「卒業研究」を配置する。

＜英語＞に関連した外国語を含む人文・社会系科目を配置する。

機械工学を理解する幅広い知識を養うために、5年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、実践的・創造的技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観、継続的・自律的に学習する能力を身につけた人材の育成を行う。

分野横断的共通科目として人文社会(国語、歴史、地理、政治)、英語、数学、自然科学(物理、化学、地球生命学)、情報系(情報処理、情報セキュリティ)の基礎教育を行っている。

機械の設計や開発を行う技術者となるために必要であり、基盤となる材料系(材料力学、材料学)、熱・流体系(熱力学、水力学)、運動系(機械運動学、機械力学)といった機械工学の専門知識を身につけるカリキュラムに加えて、ロボットやIoTを活用したシステムの構築や導入を行うために必要となる実践的かつ創造的なロボットテクノロジー科目(機械工学実習、メカトロニクス演習、電気・電子回路、アクチュエータ工学、制御工学、数値解析など)を系統的に配置している。また、ものづくりに必要とされる設計・製図(機械製図、機械設計製図、機械設計基礎、機械設計法)、加工(機械工作実習、機械工作法)の知識と技術を活用する課題解決型科目(総合実習、創造工学、卒業研究)を体系的に配置することで、次世代を担う機械系技術者に必要な能力を身につけられるようにする。第5学年では、学生自身が興味に合わせてデザイン可能な発展的な内容の科目(機械工学コース/メカトロニクスコース)を系統的に配置している。

成績評価方法に関する方針

1. 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、定期試験・演習・レポートなどの結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
2. 実技・実験・実習・演習および創造工学などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
3. 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

成績の評価および単位認定基準

上記カリキュラムを構成している各科目の学修成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載されている評価方法に沿って総合的に評価する。成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。成績評価の評語は次の基準によるものとする。

(令和6年度以前入学)

評価	点数
優	80点以上
良	65点以上80点未満
可	60点以上65点未満
不可	60点未満

(令和7年度以降入学)

評価	点数
秀	90点以上
優	80点以上90点未満
良	70点以上80点未満
可	60点以上70点未満
不可	60点未満

【学科】アドミッション・ポリシー(AP)

1. 求める入学志願者像

- ・ 中学における学習内容をしっかりと理解している人
- ・ 数学や理科に興味を持ち、科学の発展に夢を持っている人
- ・ 何事にも積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人
- ・ 他人を思いやり、協調していける人

2. 入学者選抜方針及び選抜の方法

本校では、「世界に羽ばたく創造的エンジニア」の育成を目的とし、その高い可能性を持った学生の選抜を基本とします。

入学者の選抜は、多様な人材を選抜するため、「推薦による選抜」と「学力による選抜」及び「帰国子女特別選抜」を行います。

推薦選抜においては、中学校における成績を評価するとともに、自然科学や科学技術に対する興味、工学を学ぶ意欲、生徒会活動・課外活動・ボランティア活動などの経験を通して育まれた協調性、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力などを、面接結果を含め総合的に評価し、知徳体にバランスのとれた学生を選抜します。

学力選抜においては、実践的・創造的技術者教育に必要な一般科目と専門科目を十分理解できる学生を選抜するため、その基礎となる学力の試験及び調査書の合計点を評価して選抜します。帰国子女特別選抜においては、作文と面接も評価して選抜します。

1. 本校の使命・教育理念・教育目標等の周知
2. 教育および授業計画に関連する確認事項
3. R6の進級状況とR7のクラス体制
4. R7の教務関連の組織体制と実施・検討課題

令和7年度行事予定

4月7日(月)	入学式, 写真撮影(1年), オリエンテーション
4月8日(火)	身体測定, 写真撮影(1年以外)
4月9日(水)	授業開始, 学力テスト(1,2年), 第1回TOEIC-IP

4月29日(火)	授業実施日(昭和の日)
5月3日(土)～5月11日(日)	ゴールデンウィークは9連休
7月21日(月)	授業実施日(海の日)
10月22日(水)	体育祭(中止の場合 臨時休業)
10月30日(木)～11月4日(火)	休業, 準備日, 高専祭, 休業
11月24日(月)	授業実施日(勤労感謝の日 振替休日)

	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週
月	3/31	4/7	4/14	4/21	4/28	5/5	5/12	5/19	5/26	6/2	6/9	6/16	6/23	6/30	7/7	7/14	7/21	7/28	8/4	8/11	8/18
		入学式	1	2	3	子どもの日	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	前期末試験	山の日	
火	4/1	4/8	4/15	4/22	4/29	5/6	5/13	5/20	5/27	6/3	6/10	6/17	6/24	7/1	7/8	7/15	7/22	7/29	8/5	8/12	8/19
		身体測定	1	2	3	振替休日	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	前期末試験	一斉休業	
水	4/2	4/9	4/16	4/23	4/30	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23	7/30	8/6	8/13	8/20
		1	2	3	4	一斉休業	5	6	7	授業予備日	8	9	10	11	12	13	14	15	前期末試験	一斉休業	
木	4/3	4/10	4/17	4/24	5/1	5/8	5/15	5/22	5/29	6/5	6/12	6/19	6/26	7/3	7/10	7/17	7/24	7/31	8/7	8/14	8/21
		1	2	3	4	一斉休業 計画年休	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	授業予備日	前期末試験	一斉休業	
金	4/4	4/11	4/18	4/25	5/2	5/9	5/16	5/23	5/30	6/6	6/13	6/20	6/27	7/4	7/11	7/18	7/25	8/1	8/8	8/15	8/22
		1	2	3	4	一斉休業 計画年休	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	前期末試験	試験予備日	一斉休業	
土	4/5	4/12	4/19	4/26	5/3	5/10	5/17	5/24	5/31	6/7	6/14	6/21	6/28	7/5	7/12	7/19	7/26	8/2	8/9	8/16	8/23
	開校				開校		東成科 推薦					東成科 実力							開校		
日	4/6	4/13	4/20	4/27	5/4	5/11	5/18	5/25	6/1	6/8	6/15	6/22	6/29	7/6	7/13	7/20	7/27	8/3	8/10	8/17	8/24
	開校				みどりの日	開校															

	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週
月	9/29	10/6	10/13	10/20	10/27	11/3	11/10	11/17	11/24	12/1	12/8	12/15	12/22	12/29	1/5	1/12	1/19	1/26	2/2	2/9	2/16
	1	2	スポーツの日	3	4	文化の日	5	6	7	8	9	10	11	一斉休業	12	成人の日	13	14	15	学年末試験	
火	9/30	10/7	10/14	10/21	10/28	11/4	11/11	11/18	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23	12/30	1/6	1/13	1/20	1/27	2/3	2/10	2/17
	1	2	3	4	5	一斉休業	6	7	授業予備日	8	9	10		一斉休業	11	12	13	14	15	学年末試験	
水	10/1	10/8	10/15	10/22	10/29	11/5	11/12	11/19	11/26	12/3	12/10	12/17	12/24	12/31	1/7	1/14	1/21	1/28	2/4	2/11	2/18
	1	2	3	体育祭	4	5	6	7	8	9	10	11		一斉休業	12	13	14	15	授業予備日	開校記念の日	
木	10/2	10/9	10/16	10/23	10/30	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18	12/25	1/1	1/8	1/15	1/22	1/29	2/5	2/12	2/19
	1	2	3	4	臨時休業	5	6	7	8	9	10	11		元日	12	13	14	15	学年末試験	学年末試験	卒業式 5年・専
金	10/3	10/10	10/17	10/24	10/31	11/7	11/14	11/21	11/28	12/5	12/12	12/19	12/26	1/2	1/9	1/16	1/23	1/30	2/6	2/13	2/20
	1	2	3	4	高等教課程	5	6	7	8	9	10	11		一斉休業	12	13	14	15	学年末試験	試験予備日	卒業式 1年～4年
土	10/4	10/11	10/18	10/25	11/1	11/8	11/15	11/22	11/29	12/6	12/13	12/20	12/27	1/3	1/10	1/17	1/24	1/31	2/7	2/14	2/21
					高等教											推薦入試					開校
日	10/5	10/12	10/19	10/26	11/2	11/9	11/16	11/23	11/30	12/7	12/14	12/21	12/28	1/4	1/11	1/18	1/25	2/1	2/8	2/15	2/22
					高等教			新宮感謝の日						開校					学力入試		

複数年次にわたり同じ試験問題を繰り返さないものとする。(教員手帳p.70 (5)④)

Q21. 試験問題の再利用について、どの程度の内容が類似している場合に「再利用」と判断され得るのか。また、再利用の時期が相当程度離れている場合でも、同一の試験問題を使っていることが確認された場合は「再利用」と判断されるのか。

A21. 試験問題の再利用に関しては、試験問題の内容及び期間のいずれの観点についても、学生の達成度を適切に測定する上で懸念があると認められる場合に指摘することとしています。なお、試験問題のサンプル調査では前年度と前々年度の定期試験、再試験、追試験、単位認定試験の問題を提出していただき、何れか2つ以上の試験において80%以上の内容が同一と認められる場合に、同一の試験問題を使用していると判断します。形式的な同一性ではなく、実質的な内容の同一性について判断します。

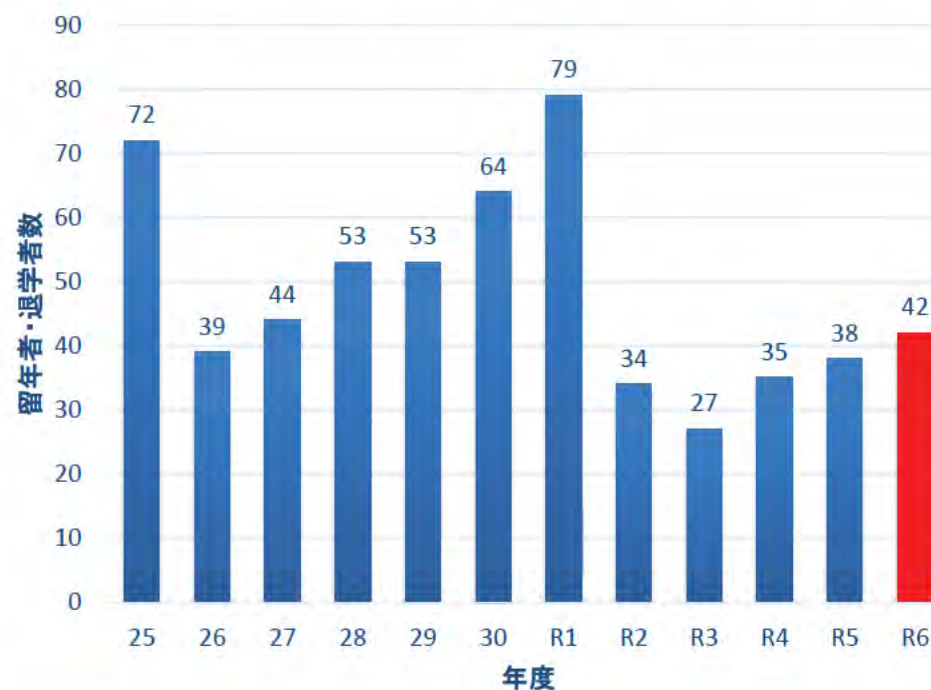
いずれにせよ、基準5-6及び基準6-6は、試験問題の再利用の事実が確認されたことのみによって判断するものではないことにご留意ください。

(平成7年度以降の高等専門学校機関別認証評価に関するQ&A p.8)

1. 本校の使命・教育理念・教育目標等の周知
2. 教育および授業計画に関連する確認事項
3. R6の進級状況とR7のクラス体制
4. R7の教務関連の組織体制と実施・検討課題

令和6年度の留年者・退学者数とその変遷

学年	留年者	退学者
1年	3	5
2年	6	4
3年	10	7
4年	4	2
5年	1	0
合計	24	18



年度途中 退学者 3名
 卒業判定・修了認定 否認定者 33名(内 休学者 17名)
 追認試験 不合格者 5名
 進級後 退学者(転校) 1名

令和7年度 クラス人数

(休学者12名を含む)

学年	1年	2年	3年	4年	5年
M	44(7)	41(6)	45(7)	44(2)	34(2)
E	46(9)	42(6)	42(5)	44(3)	38(5)
I	42(8)	46(8)	44(6)	38(10)	38(4)
C	42(21)	44(30)	44(26)	41(23)	45(33)
S	42(22)	44(25)	44(23)	39(23)	39(17)

(休学者1名を含む)

専攻	1年	2年
A	26(4)	33(5)

計1052(331)名

留学生:7(4)名

計59(9)名

学習サポート

学習支援員： XXXXXXXXXX (I科OB), 他に学生TAを計画

曜日：

月曜日 16:00-18:00

火曜日 16:00-18:00

水曜日 14:30-18:00

木曜日 16:00-18:00



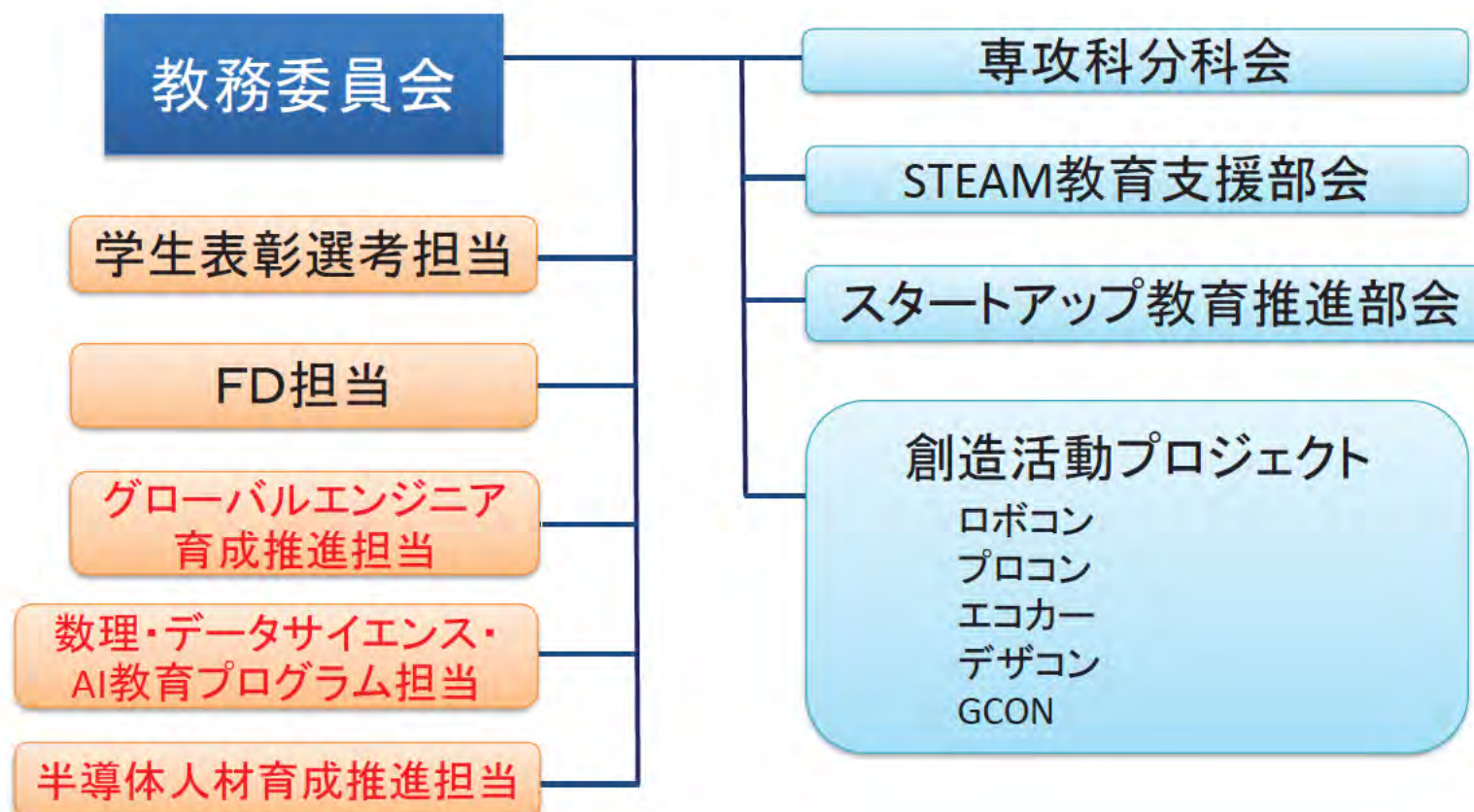
場所：イノベーション交流プラザ2F サイエンス教育支援室
(想定していなかった原級留置を減らすことを目的としています)

1. 本校の使命・教育理念・教育目標等の周知
2. 教育および授業計画に関連する確認事項
3. R6の進級状況とR7のクラス体制
4. R7の教務関連の組織体制と実施・検討課題

教務主事補

教務主事	電子情報工学科	
教務主事補(副主事)	教養教育科	
教務主事補	電子情報工学科(専攻科)	
教務主事補	機械工学科	
教務主事補	電気電子工学科	
教務主事補	電子情報工学科	
教務主事補	生物応用化学科	
教務主事補	材料工学科	
教務主事補	教養教育科	
教務主事補	教養教育科	

教務委員会組織



令和7年度実施および検討課題

- 認証評価
- 教学マネジメント
- 教育の質保証
- 半導体人材育成推進(半導体人材育成プログラム)
- 数理・DS・AI教育プログラム(応用基礎レベル申請)
- グローバルエンジニア育成事業
- STEAM教育支援
- スタートアップ教育推進
- 学習サポート
- 創造工学「カーボンニュートラルの実現」
- 生成AI講座(鈴鹿高専テクノプラザ寄付講座)

etc.

最後に

学生がよりよくなるように
教職員の協力・連携が必要です。

よろしくお願いいたします。

○ 鈴鹿工業高等専門学校試験問題同一性チェック実施要領

（ 令和 7 年 4 月 22 日 ）
校 長 裁 定

鈴鹿工業高等専門学校試験問題同一性チェック実施要領

1. 目的

複数年度あるいは同じ年度内の中間・期末試験、追試験、再試験、追認試験において同一の試験問題が使われていないことの確認に関し、組織的な措置を実施するために必要な事項を定めるものとする。

2. 試験問題の保管

年度末までに全ての科目の中間・期末試験、追試験、再試験、追認試験問題を別に定めるフォルダ内のクラス毎に設けたフォルダに科目毎のフォルダを作成し PDF 形式で保存するものとする。

3. 同一性チェックの方法

上記で保管された試験問題を OCR とパターン認識により同一性チェックを行う。類似度が高い問題の組み合わせを抽出しリストアップする。本業務は点検評価担当が実施し、結果を教務係（教育改善フォローアップ担当）と共有する。

4. 類似度が高い問題を出題した教員に該当科目を教務主事より個別に連絡する。

5. 教務主事より連絡を受けた教員は改善策を記入し教務係へ提出。

6. 提出のあった改善策について教務委員会で共有し、次年度へのフィードバックを行う。

附 記

この要領は、令和 7 年 4 月 22 日から施行し、令和 7 年 4 月 1 日から適用する。

○鈴鹿工業高等専門学校定期試験等における問題作成、答案返却及び成績通知に関する取扱い

令和 7 年 4 月 2 5 日
教務主事 裁定

最終改正 令和 7 年 5 月 2 8 日

鈴鹿工業高等専門学校定期試験等における問題作成、答案返却及び成績通知に関する取扱い

1 趣旨

この取扱いは、鈴鹿工業高等専門学校学業成績評価基準および、鈴鹿工業高等専門学校専攻科授業科目の履修及び単位修得に関する規則における、定期試験等（中間・期末試験）での必要な事項を定めるものとする。

2 試験問題の作成

以下のことに留意するものとする。

- （１）試験の設問ごとに、「知識・能力」の文言に続けて、シラバスに記載した「授業計画」の到達目標の番号を必ず明記する。
- （２）試験の設問ごとに配点を明記する。
- （３）出題された問題に対しては模範解答を作成しておく。
- （４）複数年次にわたり同じ試験問題を繰り返さないものとする。
- （５）試験問題作成・保存中は必ず自室に施錠するなどして、厳重に管理するものとする。

3 答案の返却

以下のことに留意するものとする。

- （１）授業担当教員は速やかに採点および成績入力を行う。
- （２）試験終了後の最初の授業あるいは定められた答案返却日に、答案は一旦学生に返却し、学生自身による「知識・能力」の達成度の確認を行わせるものとする。
- （３）学生へ答案返却を行う際は、模範解答や採点基準を提示する。

4 成績評価結果の通知と疑義に関する申立て

- （１）成績評価結果の通知方法は以下とする。
 - ・前期中間 担任より配布（本科 1 年生のみ保護者へ郵送）

鈴鹿工業高等専門学校定期試験等における問題作成、答案返却及び成績通知に関する取扱い

- ・ 前期末 保護者へ郵送
- ・ 後期中間 担任より配布
- ・ 学年末 保護者へ郵送

(2) 学生は、通知された成績評価結果に疑義がある場合は、教務係から通知する手段により期日までに申し立てることができる。教務係は、授業担当教員へ疑義を確認し、訂正することがある。

附 記

この取扱は、令和7年4月25日から施行し、令和7年4月1日から適用する。

附 記

この取扱は、令和7年5月28日から施行する。

平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

平成 28 年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査（平成 31 年 2 月実施）集計結果の分析

1. M科進学
 - 英語によるコミュニケーションの基礎能力の身に付き方が低評価
 - 望まれる TOEIC スコアは 440 点以上及び 550 点以上が多い
 - 集計方法に関する不備を指摘された
2. E科進学
 - 全体的に高評価
 - 望まれる TOEIC スコアは 400 点以上及び 500 点以上が多い
 - 大学院合格者の平均点は 550 点くらい
3. I科進学
 - 全体的に高評価
 - 望まれる TOEIC スコアは 550 点以上が多い
 - 3 年次までに学んだ科目は、編入先大学では単位互換してくれないケースがあるから、4 年でやった方が良い、との意見があった
4. C科進学
 - 全体的に高評価
 - 望まれる TOEIC スコアは 550 点以上が多い
 - 「高専での卒業研究においては研究の立ち位置や意義付けに対する部分がやや弱かったのでは？」と思わされることが時々ある。その点に意識付けしてほしい」との意見があった
5. S科進学
 - 望まれる TOEIC スコアは 450 点以上が多い
 - 進学・就職で初めて一人暮らしを始める学生のためにアドバイスがもらえる機会を作ってあげてはどうか、との意見があった
6. M科就職
 - 望まれる TOEIC スコアは 400 点以上が多い
7. E科就職
 - 英語によるコミュニケーションの基礎能力の身に付き方が低評価
 - 望まれる TOEIC スコアは「特に望まない」が多い
 - 基礎的な内容に不十分な理解が多い、の類似意見が 3 件あった（基礎学力が高い、との意見も 1 件あった）
 - 在籍時の「電気工事士 1 種」「電気主任技術者 3 種」等の公資格取得を勧める意見があった
 - 積極的な意思表示、情報発信が苦手な社会人としてのコミュニケーション能力不

平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

足を指摘された

8. I 科就職

- 全体的に高評価
- 望まれる TOEIC スコアは 500 点以上及び「特に望まない」が多い
- 社会人としてのマナーや働くことの意義についての教育を求める意見があった
- Excel のマクロ教育も求める意見があった

9. C 科就職

- 英語によるコミュニケーションの基礎能力の身に付き方が低評価
- 「専門分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力」に関してやや低評価
- 望まれる TOEIC スコアは「特に望まない」が多い
- カリキュラムポリシーの特徴が伝わらない、との意見があった
- メンタル疾患にかかる高専卒業性が増えているので、ストレス状態に強いタフな精神力を持つ学生の需要が高まっている、との意見があった

10. S 科就職

- 英語によるコミュニケーションの基礎能力の身に付き方がやや低評価
- 望まれる TOEIC スコアは 400 点以上及び 500 点以上が多い
- 一般教養／常識がない、との意見があった（文章表現上、集計ミスの可能性有り）
- 製鋼工程を間近で見る機会を作ってもらいたい、との意見があった
- 論理建てた日本語の文章を書く訓練が不足していると感じる、読書を奨励してほしい、との意見があった
- 入社時の英語力は不問だが、入社後の英語学習への積極性を重視したい、との意見があった

11. その他

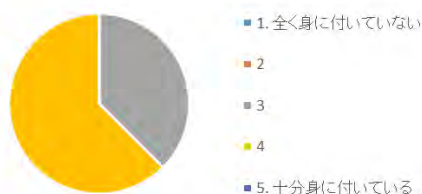
- 早い段階から専門的な知識を就学することについて、進学先からは「単位互換の関係で4年生から」との意見だが、就職先からは「早くから学ぶのは望ましい」と意見が分かれている

平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

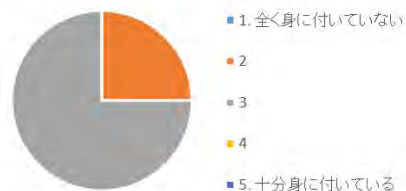
平成 28 年度 本科卒業生の「学習・教育目標」の達成度等
に関するアンケート調査項目

M 科進学：

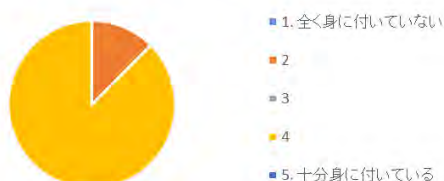
1. ディプロマ・ポリシーの「1.人文社会の基礎知識と幅広い教養」をどの程度身に付けているでしょうか？



2. ディプロマ・ポリシーの「2.英語によるコミュニケーションの基礎能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



3. ディプロマ・ポリシーの「3.機械工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



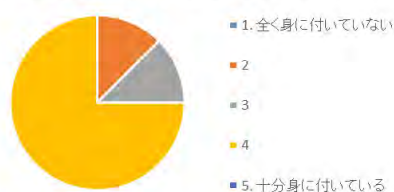
4. ディプロマ・ポリシーの「4.機械工学の専門としての、材料系、熱・流体系、運動・制御系の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



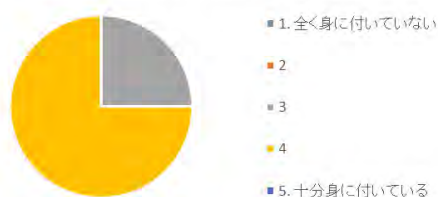
5. ディプロマ・ポリシーの「5.ものづくりのための、素材、設計・製図、加工・生産、計測の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



6. ディプロマ・ポリシーの「6.機械工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



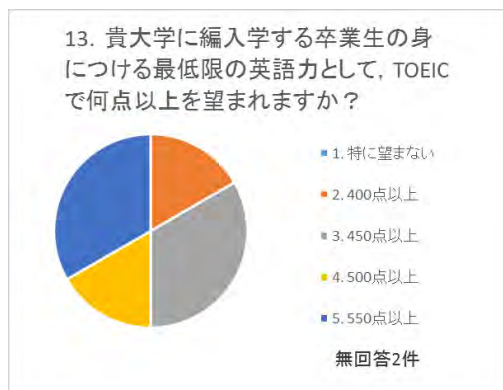
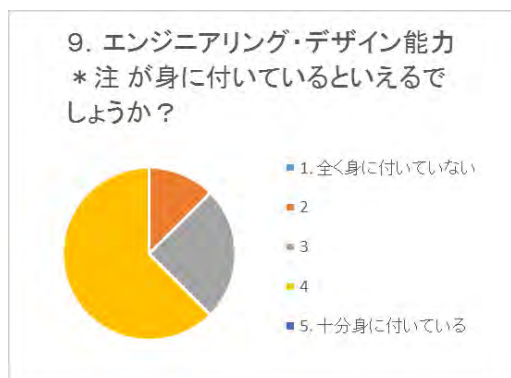
7. ディプロマ・ポリシーの「7.実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



8. ディプロマ・ポリシーの「8.技術者としての倫理観」をどの程度身に付けているでしょうか？



平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析



記述：

10. ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修するための「機械工学科 カリキュラム・ポリシー」を定めています。これにつきましても、ご意見がございましたらご記入下さい。

・専攻科の場合は通算 7 年間という長い期間ですので、継続的な努力・学習の習慣育成が重要と感じます。

11. 本校の教育の成果として発揮できていると考えられる具体的な事例等がございましたらご記入下さい。

・実験装置の作成において、CAD ソフトを用いた設計から工作機械を使用して加工を行うことに関して積極的に取り組んでいました。

・期限が迫っても決して焦ることなく、何とか切り抜ける能力が身についています。

14. その他

・貴学教職員と本学教職員との連携を、これまで以上に深めて参りたいと考えております。引き続き、よろしくお願い致します。

・御校からの学生を初めて研究室に受け入れましたが、他の高専（九州地区でポピュラーな）の卒業生と同様に非常に意識が高く優秀です。上記の質問で「5. 十分に身に付いている。」としていないのは、本人に求めたいレベルの高さと卒業研究だけで十分に判断しきれないためとお考えください。

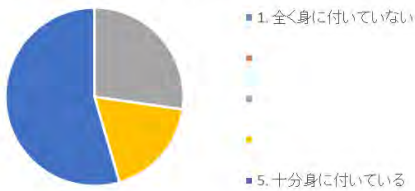
・優秀な学生さんです。ロボットハンドの力学シミュレーション（CAD モデルに基づいた数値シミュレーション）に関する卒業研究を行っていただきました。

・このアンケートは依頼された人と全く関係ない他人でも、できてしまうのではないかと思いました。

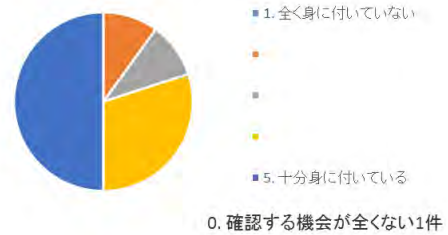
平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

E 科進学

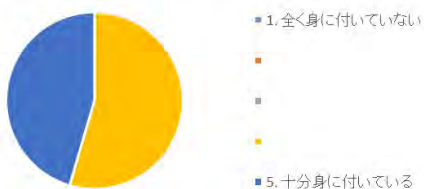
1. ディプロマ・ポリシーの「1.人文社会の基礎知識と幅広い教養」をどの程度身に付けているでしょうか？



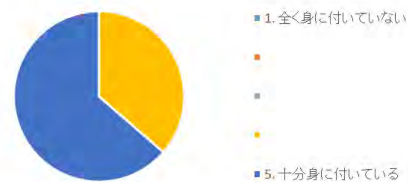
2. ディプロマ・ポリシーの「2.英語によるコミュニケーションの基礎能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



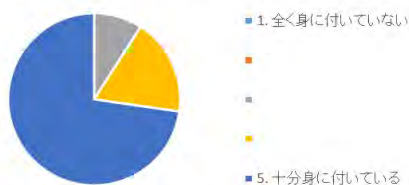
3. ディプロマ・ポリシーの「3.電気電子工学の基礎として、数学、自然科学および情報技術の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



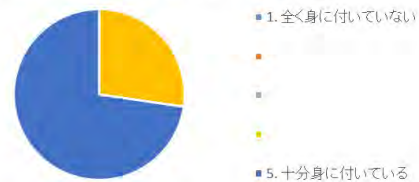
4. ディプロマ・ポリシーの「4.電気電子工学の専門として、電磁気学、回路系、エネルギー機器系、物性・デバイス系、計測・制御・情報系および設計・製図の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



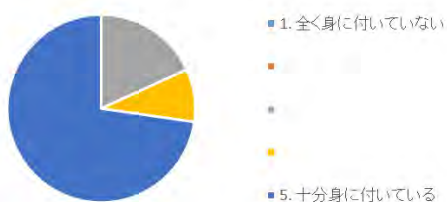
5. ディプロマ・ポリシーの「5.電気電子工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



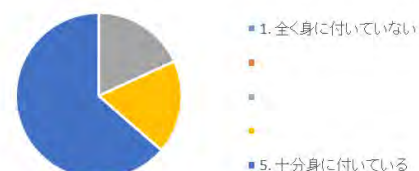
6. ディプロマ・ポリシーの「6.実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



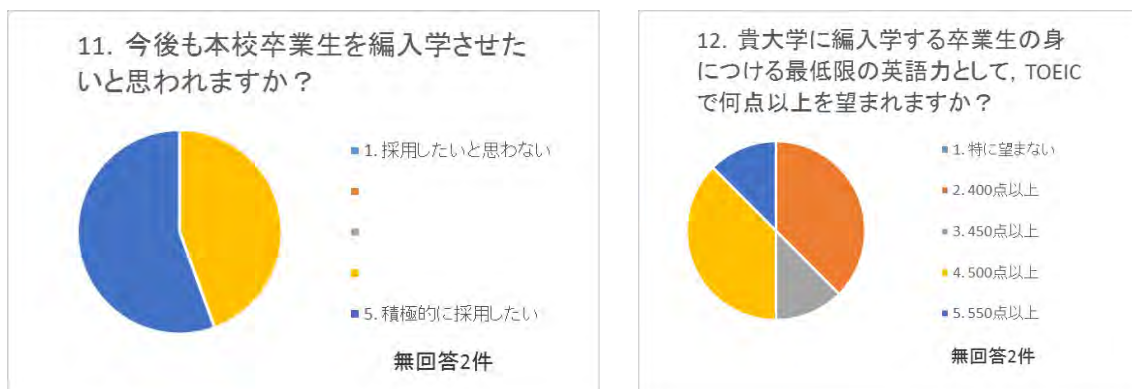
7. ディプロマ・ポリシーの「7.様々な技術に社会に役立てるために必要な高い倫理観」をどの程度身に付けているでしょうか？



8. エンジニアリング・デザイン能力 * 注が身に付いているといえるでしょうか？



平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析



記述：

9. ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修するための「電気電子工学科 カリキュラム・ポリシー」を定めています。これにつきましても、ご意見がございましたらご記入下さい。

・「賛同」の意見が2件

10. 本校の教育の成果として発揮できていると考えられる具体的な事例等がございましたらご記入下さい。

・当該学生が卒業研究で開発したタブレットアプリケーションの〇〇市の〇学校における実践の様子が新聞にのりました。

・研究室ゼミなどでの英語文献の理解力、卒業研究の遂行能力、発表能力は他学生よりも高いように思われます。

・「特別研究を自主的に行っていることです。」同一意見が2件

13. その他

・今後とも本学を編入学先に勧めて頂ければ幸いです。

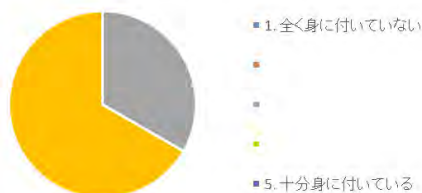
・大学院進学予定ですので、これから伸びていくと思われま。

・TOEICは〇〇大学では1年次終了時に400点を最低合格ラインにしている。院入試の英語の点数はTOEICのスコアを使用している。年によって変動が大きいが合格者の平均点は550点ぐらいである。

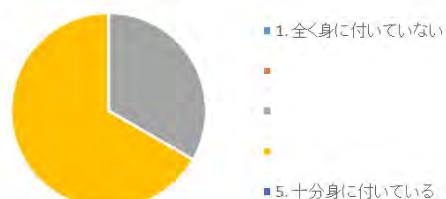
平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

I 科進学

1. ディプロマ・ポリシーの「1.人文社会の基礎知識と幅広い教養」をどの程度身に付けているでしょうか？



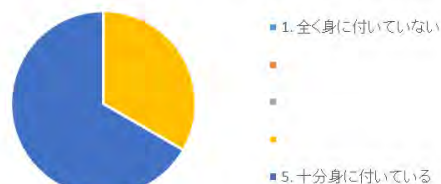
2. ディプロマ・ポリシーの「2.英語によるコミュニケーションの基礎能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



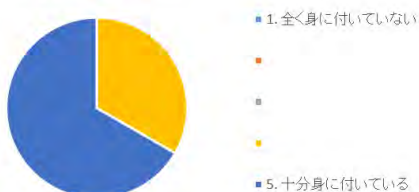
3. ディプロマ・ポリシーの「3.電子情報工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



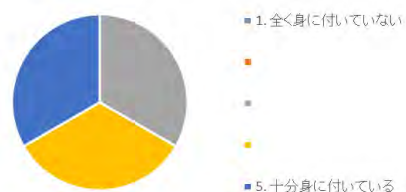
4. ディプロマ・ポリシーの「4.電子情報工学の専門としての、電気電子系、情報通信系の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



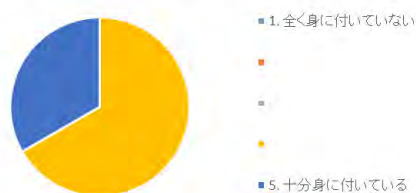
5. ディプロマ・ポリシーの「5.ものづくりのための、ハードウェア、ソフトウェア及び両者の融合技術の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



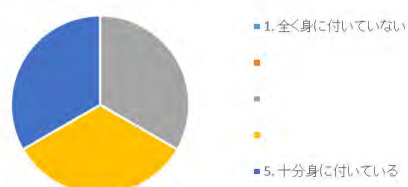
6. ディプロマ・ポリシーの「6.電子情報工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



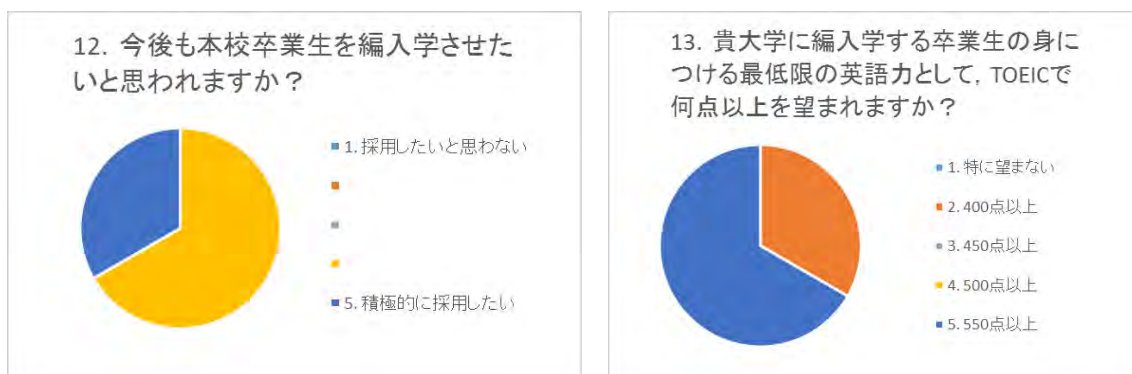
7. ディプロマ・ポリシーの「7.実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



8. ディプロマ・ポリシーの「8.技術者としての倫理観」をどの程度身に付けているでしょうか？



平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析



記述：

10. ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修するための「電子情報工学科 カリキュラム・ポリシー」を定めています。これにつきましても、ご意見がございましたらご記入下さい。

・ 定めた側でもありますので、意見は特にありません。

・ 早い段階から専門教育を学習するのは、工業高等専門学校を卒業して社会に出る学生には良いことと思います。しかし大学への編入を考えている学生には、高校3年生までは基礎教育に専念させてあげた方が望ましい気が致します。なぜなら3年次までに習得した専門科目の単位は、大学で単位認定されないケースがあります。高等専門学校の最初の3年間を高校と位置付け、次の2年間を大学の最初の2年間と位置付けてしまっています。課程が異なるとはいえ、大学の理工系基礎科目や英語を学んでからの専門科目と学ぶ前の専門科目ではレベルが異なるだろう、という考え方によります。

11. 本校の教育の成果として発揮できていると考えられる具体的な事例等がございましたらご記入下さい。

・ プログラムの実装能力は優れています。

・ 一般に工専からの編入生は、3年次の演習や実験の科目において、1年次から入学した学生に比べて目覚ましいスキルとノウハウを発揮します。これはどの工専から来た方でも同様です。

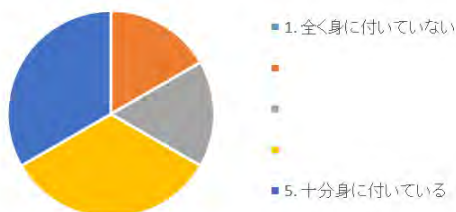
14. その他

・ 私は〇〇くんの指導教員ではなく、退学届を提出する際に面談をした学年担任の者です。〇〇くんは、昨春に本学を自主退学しています。編入当初から、習ったことばかりを学ばされるので、やる気がなくなったと言っていました。電気通信大学に編入された際に、工専で学ばれた多くの科目を、単位認定してもらえなかったそうです。そして3年次もあまり学業には専念せず、彼はインターンシップといていましたが、ベンチャー企業でアルバイトをしていたそうです。そして4年次の春に退学していきました。そのベンチャー企業で働くと教えてくれました。卒業研究着手をしてはどうかと勧めましたが、もう目は社会に向いていて、輝いていましたので、強くは引き止めませんでした。この機会にお伝えするのが良いのかわかりませんが、高専から大学に編入される学生の少なくない割合が、3年次までに学んだ専門科目を、学年が高校に相当するからとして、編入先で単位認定してもらえません。認定科目が少なくとも3年と4年で科目履修をすれば間に合いますため、卒業には支障はありませんが、たまにやる気をなくす学生がおります。大学には入れるのですが、周りと異なった時間割で過ごすからでしょうか。高等専門学校には、高等専門学校に関する規則等があるかとは思いますが、編入を希望する学生の皆さんには、たとえ既習得の内容でも狙いや位置付けが異なるので、もう一度履修できるのは却って有利とさせていただくよう、応援していただけたら幸いです。

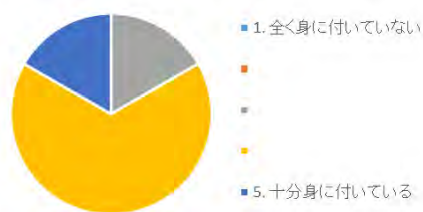
平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

C 科進学

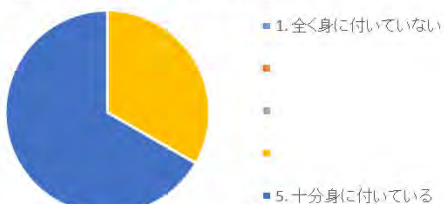
1. ディプロマ・ポリシーの「1.人文社会の基礎知識と幅広い教養」をどの程度身に付けているでしょうか？



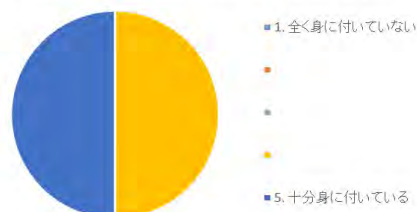
2. ディプロマ・ポリシーの「2.英語によるコミュニケーションの基礎能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



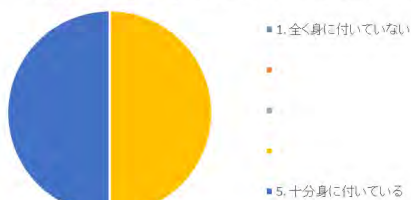
3. ディプロマ・ポリシーの「3.応用化学および生物工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



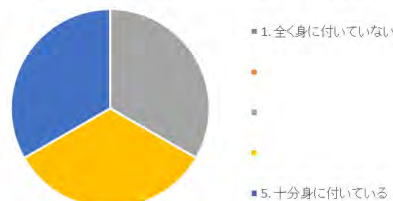
4. ディプロマ・ポリシーの「4.化学に関する理論と知識(無機化学系、有機化学系、分析化学系、生物化学系、物理化学系)、ならびに実験技術」をどの程度身に付けているでしょうか？



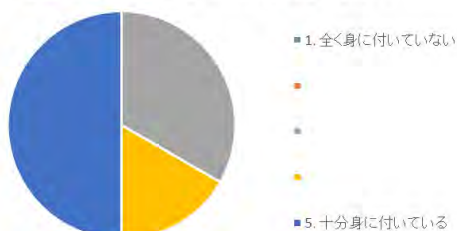
5. ディプロマ・ポリシーの「5.応用化学・生物工学に関する共通・コース別専門知識(工業化学系、化学工学系、設計・システム系、環境工学系、細胞工学系、遺伝子工学系、生体材料工学系)、ならびに実験技術」をどの程度身に付けているでしょうか？



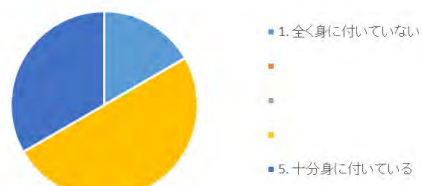
6. ディプロマ・ポリシーの「6.応用化あるいは生物工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



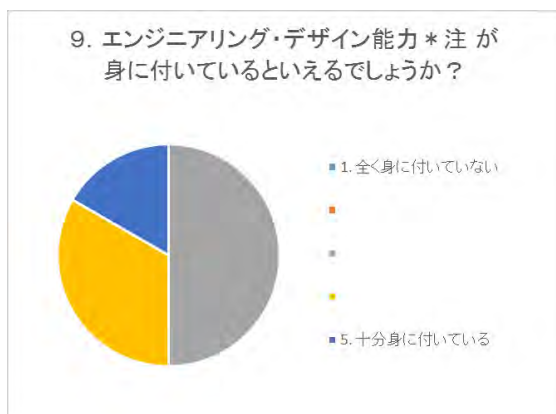
7. ディプロマ・ポリシーの「7.実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



8. ディプロマ・ポリシーの「8.技術者としての倫理観」をどの程度身に付けているでしょうか？



平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析



記述：

10. ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修するための「生物応用化学科 カリキュラム・ポリシー」を定めています。これにつきましても、ご意見がございましたらご記入下さい。

・明確な将来的な目標・方向性に加えて、勉学に対する高い意欲を醸成していただいていると思います。 現在、卒業研究を行っておりますが、高専での卒業研究においては研究の立ち位置や意義付けに対する部分がやや弱かったのでは？と思わされることが、時々あります。その点に意識付けをいただくとさらに強い人材を輩出できるのではないかと思います（大学人としての見方かもしれませんが）。

・特にありません。今のとおりで十分だと思います。

11. 本校の教育の成果として発揮できていると考えられる具体的な事例等がございましたらご記入下さい。

・しっかり勉強する習慣が非常によく身につけていると思います。 まだ、確定ではありませんが、修得単位数と成績（GPA）により決められる成績優秀学生として、卒業時に表彰される予定です。

・御校の卒業生は、バランスよく知識を持っているものが多いと感じます。特に化学に関する基礎知識、実験技能を身につけており、大学編入後の学修、研究室配属後の卒業研究・大学院特別研究の実施（指導内容の理解）、成果の発信（学会発表など）に大いに役立っております。

平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

14. その他

・優秀な学生をお送りいただきありがとうございます。どこの地方大学も優秀な工学系の人材確保には苦勞しておりますので、個人的には高専との結びつきとさらに強めたいと思っております。引き続きよろしくお願い申し上げます。

・Q4, 5, 6 の生物関連領域に関することについては、能力・技術を確認しておりません。ただ、化学関連の知識については十分あるので、評価は5としました。技術者養成の教育は大変重要ですが、同時に「技術者としての倫理観」の涵養も大切だと思います。企業が求人活動で本系を来訪すると、必要な人材として、チームで仕事をするため仲間との意思疎通する能力、仲間と共有できる倫理観・公德心を身に着けたものを求めてきます。中学卒業から5年間の精神的にも成長する時期を一貫で教育される高専であればこそ、実践的工学教育だけでなく、人間としての行動の基本となる倫理観・公德心を身につける教育（自省の助けとなる教養の涵養）の一層の充実を願っております。

・TOEIC は 600 点がラインですね。大学院入試時点での平均はもう少し上です。

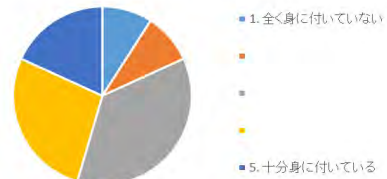
平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

S 科進学

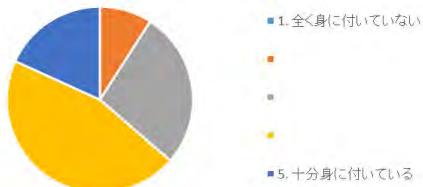
1. ディプロマ・ポリシーの「1.人文社会の基礎知識と幅広い教養」をどの程度身に付けているでしょうか？



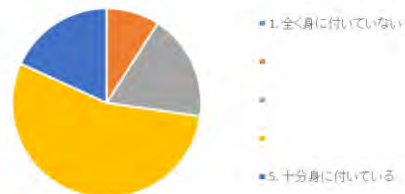
2. ディプロマ・ポリシーの「2.英語によるコミュニケーションの基礎能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



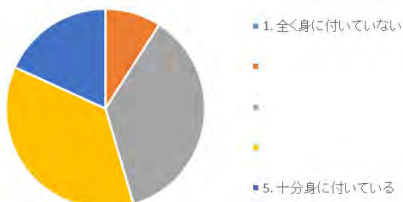
3. ディプロマ・ポリシーの「3.材料工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



4. ディプロマ・ポリシーの「4.材料工学の専門としての、金属材料、無機材料、有機材料の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



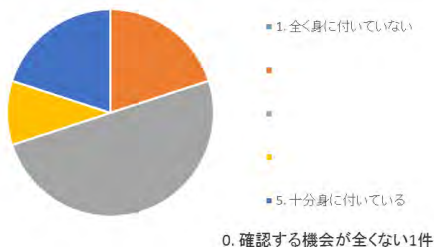
5. ディプロマ・ポリシーの「5.材料の理解に必要な材料物性と物理化学の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



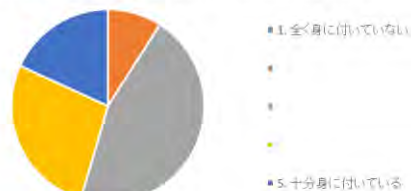
6. ディプロマ・ポリシーの「6.材料の理解に必要な分析・評価の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



7. ディプロマ・ポリシーの「7.ものづくりのための、設計・製図、加工の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？

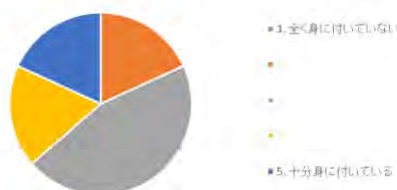


8. ディプロマ・ポリシーの「8.実験や実習を通じて、材料の合成・評価の技術、および他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

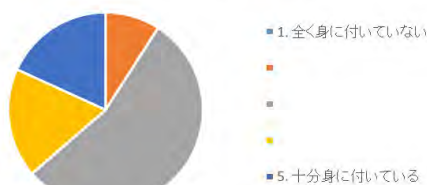
9. ディプロマ・ポリシーの「9.材料工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



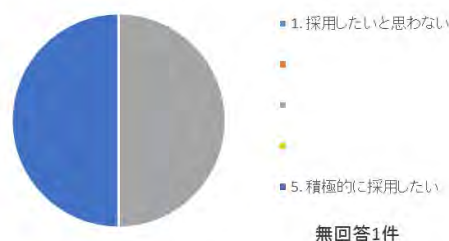
10. ディプロマ・ポリシーの「8.技術者としての倫理観と公正な態度」をどの程度身に付けているでしょうか？



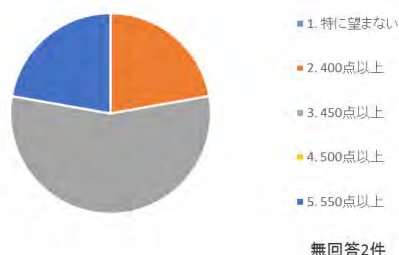
11. エンジニアリング・デザイン能力＊注 が身に付いているといえるでしょうか？



14. 今後も本校卒業生を編入学させたいと思われませんか？



15. 貴大学に編入学する卒業生の身につける最低限の英語力として、TOEICで何点以上を望まれますか？



記述：

12. ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修するための「材料工学科 カリキュラム・ポリシー」を定めています。これにつきましても、ご意見がございましたらご記入下さい。

・当社としても若く、高い知識・技能を習得した高専卒の方に注目しております。3つの方針をホームページで拝見させて頂きました。最近の技術者には手法を重視される方が多く、原理・原則という解析の根幹となる部分が疎かに見える時があります。貴校の教育理念を一人でも多くの学生に浸透させ、即戦力の技術者を輩出される事をお願い致します。

平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

13. 本校の教育の成果として発揮できていると考えられる具体的な事例等がございましたらご記入下さい。

- ・研究活動において、これまで学習してきた知識に基づいて実験で得られた結果を解析するとともに、わからないことがあった場合には必要な知識を自主的に学習することができる。
- ・学会活動において、大学院生と同程度の発表や質疑応答ができる。
- ・基本的な事項は充分習得できていると思われる。先輩からの指示、指導等に対してもほとんど対応できる点は高専生ならではの点だと思います。
- ・技術・知識としてはまだ未熟なものの、与えられた課題に真摯な態度で臨むという姿勢は好感が持てます。現在は設備管理、製品管理の傍ら省エネ活動にも積極的に取り組んでおります。伸びしろはあると思いますので、当社としても徐々に力を付けていける様に支援していきたいと思っております。

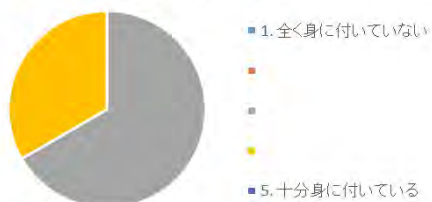
16. その他

- ・貴校の卒業生の中には進学、就職等で初めて一人暮らしをされる方も多いと思います。その心構え等を先輩卒業生からアドバイスしてもらえる機会はあるのでしょうか。そのような機会があれば進学先・就職先でもスムーズに環境に馴染めるのではないかと思います。

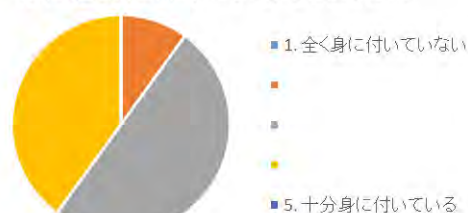
平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

M 科就職

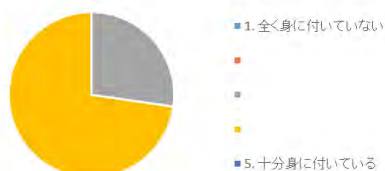
1. ディプロマ・ポリシーの「1.人文社会の基礎知識と幅広い教養」をどの程度身に付けているでしょうか？



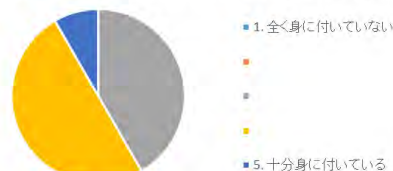
2. ディプロマ・ポリシーの「2.英語によるコミュニケーションの基礎能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



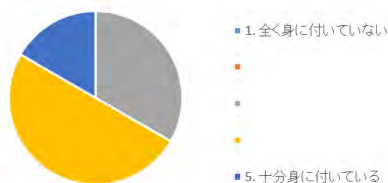
3. ディプロマ・ポリシーの「3.機械工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



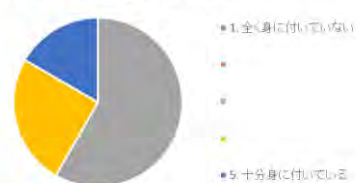
4. ディプロマ・ポリシーの「4.機械工学の専門としての、材料系、熱・流体系、運動・制御系の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



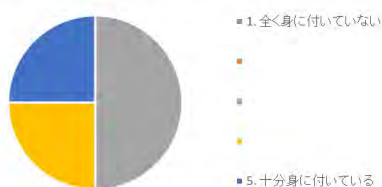
5. ディプロマ・ポリシーの「5.ものづくりのための、素材、設計・製図、加工・生産、計測の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



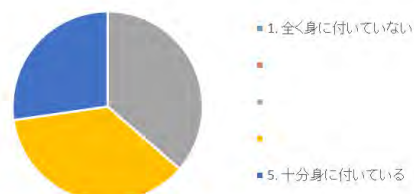
6. ディプロマ・ポリシーの「6.機械工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



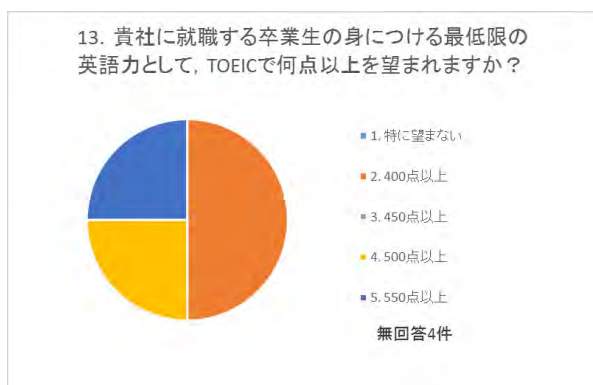
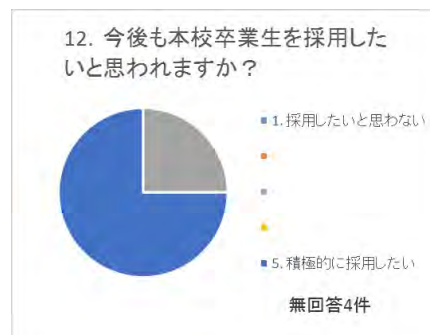
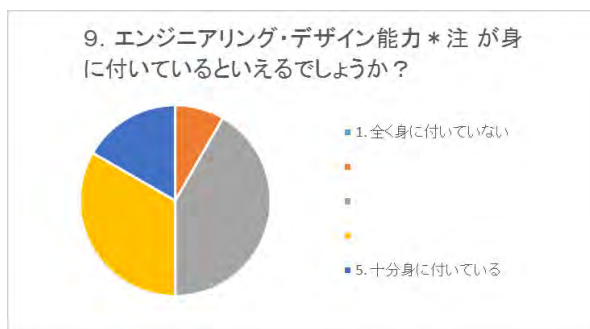
7. ディプロマ・ポリシーの「7.実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



8. ディプロマ・ポリシーの「8.技術者としての倫理観」をどの程度身に付けているでしょうか？



平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析



記述：

10. ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修するための「機械工学科 カリキュラム・ポリシー」を定めています。これにつきましても、ご意見がございましたらご記入下さい。

・現場での実務経験を積む際の基礎知識があり、非常に良いと思います。専門教育段階で設計・電気などの国家試験の取得促進していくことによって、さらに即戦力な人材の育成になると思います。

・“〇〇さんは生産技術部で業務を行ってもらっているが、業務を進める上での基礎知識という部分では新入社員として問題ないレベルと考えています。”

・弊社での1年目は生産部、品証部等の研修が中心であるため判断が難しいので、申し訳ありませんが『3』とさせていただきました。

・弊社には高専卒の方も多く在籍しており、私自身も高専卒のため高専の早い段階からの専門教育学修は企業にとっても即戦力度合が高く、良いカリキュラムだと感じております。

11. 本校の教育の成果として発揮できていると考えられる具体的な事例等がございましたらご記入下さい。

・建造船の試験運転において、機関室の振動の計測、その振動箇所への対策検討、客先への説明を〇〇さん一人に対応/完結させたことを非常に評価しています。

・ものづくりに置いて必要なCAD図面の見方が理解できているので、図面をみて計算式からプログラム作成する値を導き出して、仕様書として必要なまとめが出来ていると感じます。また問題点に対して知識と技術を活用し、解決しようとして前に進めていく能力があり判らなければ都度確認して対応しております。

・生産技術部では既存設備の改善や新規要素研究などの現場に入り込んだ業務があり、知識だけでなく現場力も必要である。その点では大学卒よりも実習などが充実している部分は良いと考えます。

平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

- ・ものづくりが好きであることを大変評価します。
- ・新入社員論文等の資料に関して纏め方が論理的。また、発表自体も分かり易いことから貴校の教育の成果と考えております。
- ・弊社の工作機械は、お客様の注文に応え、一品一品作り上げています。その業務の中で、〇〇さんは、お客様の要望に応えるために、早く、正確に、機械の立ち上げを行ってくれています。

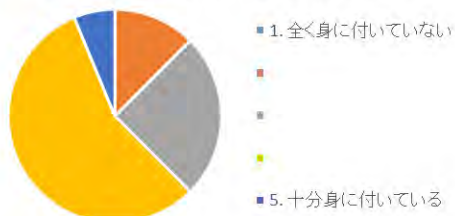
14. その他

- ・Q 1 〜 Q 4については、まだ実務と直結していないため期待を含んだ回答となっています。一方、〇〇さん個人の個性/能力によるものかもしれませんがQ 5 〜 Q 9の回答通り〇〇さんに対しては貴ディプロマ・ポリシーは達成出来ているのではないかと考えております。
- ・本人に対してヒアリングしたもののベースをもとに判定した結果を記載させていただきました。全体的に少し厳しめな判定にはさせていただきましたが、期待も込めての現状を率直に記載させていただきました。貴校卒業生には、今後も期待しておりますので、これからもどうぞ宜しく御願い申し上げます。
- ・特にありません
- ・“〇〇さんも含め、高専生は基礎学力は高いと感じております。一方で、企業規模が大きくなるほど多くの方と協同で業務に取り組むため、基礎学力以外にもコミュニケーション力や報・連・相、及び期限管理意識も強化していくと更に良いと考えます。”

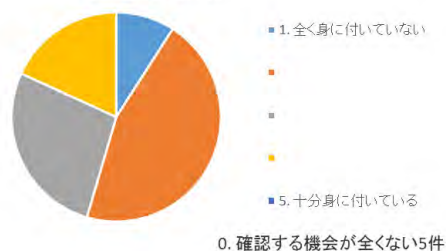
平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

E 科就職

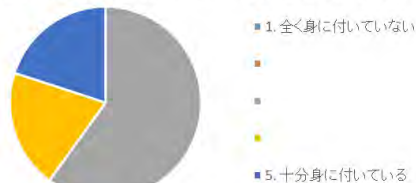
1. ディプロマ・ポリシーの「1.人文社会の基礎知識と幅広い教養」をどの程度身に付けているでしょうか？



2. ディプロマ・ポリシーの「2.英語によるコミュニケーションの基礎能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



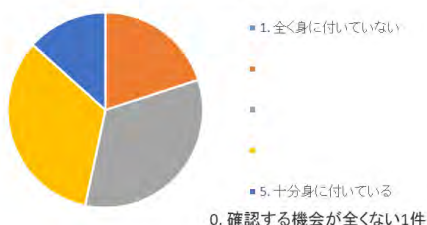
3. ディプロマ・ポリシーの「3.電気電子工学の基礎として、数学、自然科学および情報技術の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



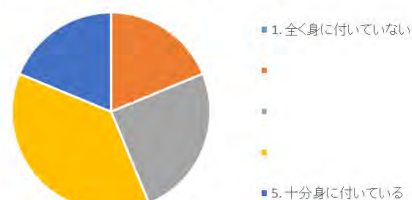
4. ディプロマ・ポリシーの「4.電気電子工学の専門として、電磁気学、回路系、エネルギー機器系、物性・デバイス系、計測・制御・情報系および設計・製図の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



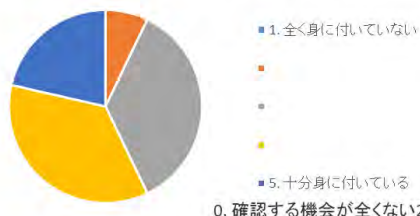
5. ディプロマ・ポリシーの「5.電気電子工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



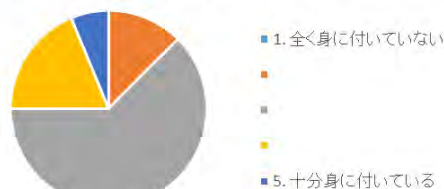
6. ディプロマ・ポリシーの「6.実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



7. ディプロマ・ポリシーの「7.様々な技術を社会に役立てるために必要な高い倫理観」をどの程度身に付けているでしょうか？



8. エンジニアリング・デザイン能力*注が身に付いているといえるでしょうか？



平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析



記述：

9. ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修するための「電気電子工学科 カリキュラム・ポリシー」を定めています。これにつきましても、ご意見がございましたらご記入下さい。

- ・即戦力となる人材育成に引き続きご協力願います。
- ・専門的な知識習得も必要ですが、人とのコミュニケーション能力UPについてさらに力を入れて教育いただけますと社会に出てスムーズに業務に溶け込めると思います。
- ・断片的な知識は豊富とを感じるが基礎的な内容に不十分な理解が多いと感じるので基礎学習掛ける時間を増やすことを提案。
- ・一般教養、工学知識・技能をバランスよく習得する内容を維持してください。
- ・早い段階からより専門的な知識を習得させようとする方針は非常に良いと思います。一方で、そのために、基本的な知識の習得が不十分になることが懸念されます。個人の理解度に合わせ、柔軟にカリキュラムを組めればより効果的な育成ができるのではと思います。
- ・”就学中に「電気工事士1種」、「電気主任技術者3種」等の公資格を取得されますと、より即戦力として我々の職場に限らず、工場内で活躍できると考えます。”
- ・全てのカリキュラムを高次元で理解するのは大変難しいことだと思いますので、自分の強みを1つでも持って卒業できると強いと思います。(例えば、回路に強い、制御に強い等)
- ・鈴鹿高専で学ばれた、電気電子工学科の基礎知識は、弊社の設備開発に大きく貢献されております。特に、電気配線・制御プログラム設計など、新装置設計に関わる開発を主に対応し、技術力向上に向けて取り組んでもらっております。

10. 本校の教育の成果として発揮できていると考えられる具体的な事例等がございましたらご記入下さい。

- ・入社2年目ながら、他者と協働しながら課題を解決する能力(Q6.)を養ってみえ、助かっております。
- ・”なかなか学んだ知識を生かせる業種ではないですが、その中でも1つ1つの業務を愚直に進めている点がディプロマ・ポリシー「7. 様々な技術を社会に役立てるために必要な高い倫理観」に当てはまるのではないかと考えております。(具体的な事例でなく申し訳ありません)”
- ・新規設備導入による上司へのプレゼン力とメーカー様との細かな打合せや設備改良が発揮出来ていると思います。
- ・私(上司)も高専卒ですが、幅広い知識と基礎的な工学を学んでいる高専生は今の日本企業のデマンド(必ずしも学校での専門を業務とするわけではないが、一般的な知識とコミュニケーション能力と工学的な思考能力が求められる)とマッチしていると思います。

平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

- ・〇〇さんは生産技術部の業務は現場に近い技術者という立場であるため、現場力は非常に重要です。その点では大卒よりも業務の習得能力は高いため、実習などのカリキュラムは有効と考えています。
- ・何事にもまじめな姿勢で取り組んで頂いており、組織の成果に貢献頂いております。
- ・基礎学力が高いので、統計的手法の教育で得た知識をすぐに実践に活用し、課題解決のワーキンググループにおいて中心的に活動されています。
- ・開発秘の関係上詳しくお話しできませんが、電気の知識を活かした面で大変活躍してくれています。
- ・ここ数年、新規事業関連の業務を立上げた事で、ｽﾎｰﾝ用途以外での生産装置開発が必要となり、過去取組んだ事のない課題にチャレンジしてもらっております。

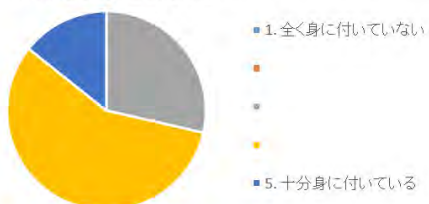
13. その他

- ・今後の更なるご活躍を期待しております。
- ・"Q12 にて「特に望まない」と回答しておりますが、入社前の通信教育で語学の勉強していただいております。採用の時点では TOEIC の点数に決まりはありません。"
- ・積極的な意志表示、情報発信が苦手と思われる節があり社会人としてのコミュニケーション能力がやや不足している。この点について指導して頂けると有難い。
- ・"英語能力は業務により必要度は変わり、必要に応じて伸びるものだと考えますので、英語に拒否反応がないレベルであれば問題ないと考えます。また、弊社に入社していただいた方のレベルは弊社としては満足できるレベルです。"
- ・優秀な人材を迎え入れることが出来、助かっています。彼を中心に当職場の若年層のスキルアップに期待しており、今後も彼のような人材が当社を選んでいただけたら幸いです。

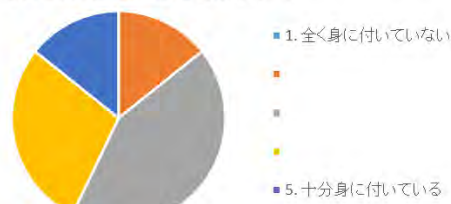
平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

I 科就職

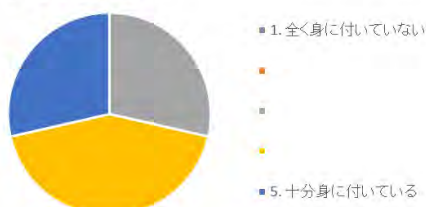
1. ディプロマ・ポリシーの「1.人文社会の基礎知識と幅広い教養」をどの程度身に付けているでしょうか？



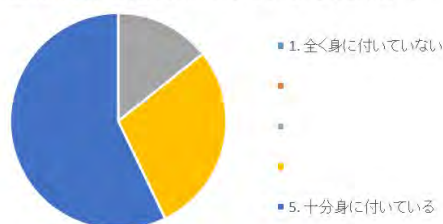
2. ディプロマ・ポリシーの「2.英語によるコミュニケーションの基礎能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



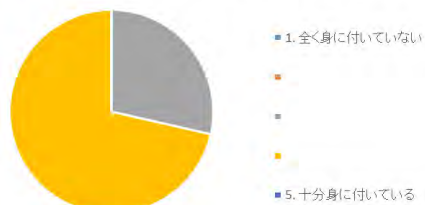
3. ディプロマ・ポリシーの「3.電子情報工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



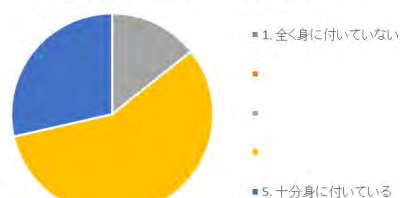
4. ディプロマ・ポリシーの「4.電子情報工学の専門としての、電気電子系、情報通信系の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



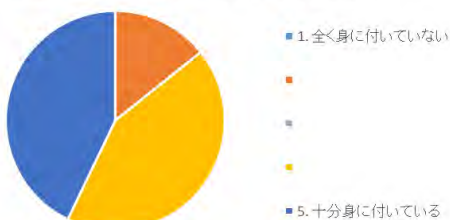
5. ディプロマ・ポリシーの「5.ものづくりのための、ハードウェア、ソフトウェア及び両者の融合技術の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



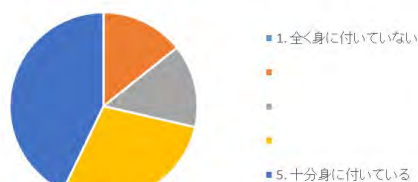
6. ディプロマ・ポリシーの「6.電子情報工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



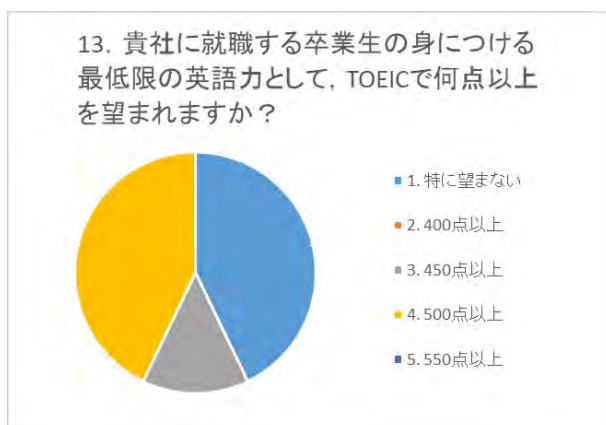
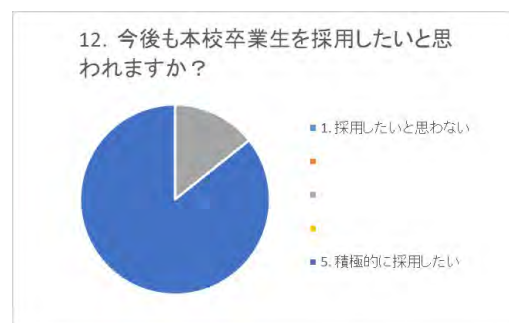
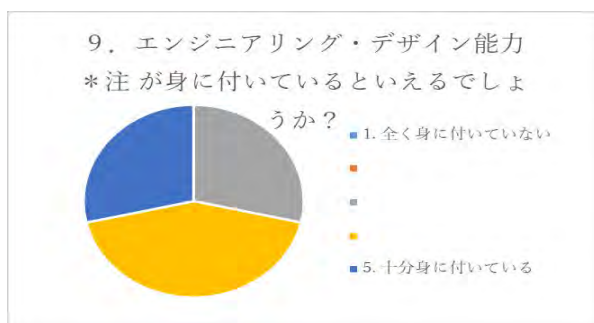
7. ディプロマ・ポリシーの「7.実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



8. ディプロマ・ポリシーの「8.技術者としての倫理観」をどの程度身に付けているでしょうか？



平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析



記述：

10. ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修するための「電子情報工学科 カリキュラム・ポリシー」を定めています。これにつきましても、ご意見がございましたらご記入下さい。

・”ものづくりのための「課題解決型科目」に重点を置かれていること、大変素晴らしいと思います。貴校学生様が卒業後、はたらく上で、多くの人や物と関わることは必ず発生し、また制作したものが多くの企業・ユーザーの方によって必ず使われることになるかと思えます為、是非、「社会の中でどのようなクリエイターになるか」「社会にどのような価値をもたらしたいか」を考えることのできる力を養って頂ければ幸いです。”

・早い段階での、世間に通用する知識の習得は御校卒業以外の卒業生と比べても大きなアドバンテージになると思います。

・早い段階から専門的なことを学ばせることは、大変重要なので共感できる。

・”航空分野において、電気・電子・情報の知識の必要性は非常に高まっています。早い段階での専門教育については期待しております。”

・”専門知識の習得が主体である事は理解できるが、就職後、即戦力として社会人としての基礎的なマナーや働くことの意義についての教育があってもよいと思います。当然、入社後に企業側で実施すべき研修カリキュラムなのですが入社後の研修で基礎的な部分を意識付けされた人との差がでてるように思われます。(個人的な部分はあるとは思いますが・・・) ※ディプロマポリシーの8. に該当する事項だと思いますがカリキュラムのタイトルだけだと実際にどのような教育がされているか解りづらいのでカリキュラムの内容を説明いただけると意見しやすいです。”

平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

11. 本校の教育の成果として発揮できていると考えられる具体的な事例等がございましたらご記入下さい。

- ・得意の折衝にて行き詰まった際、自らの考えを持ちつつ、上長に判断を仰ぎ対応すること。
- ・昨年から本社の情報システム課の事務業務に携わり、書類の処理・各種システム設定など日常の一般業務を単独で行えるようになった。情報システムに関する問合せだけでなく広範囲の問合せがあるが、適切に対応出来るようになった。
- ・『世界に羽ばたく創造的エンジニア』を意識しており、他の人間が敬遠しがちな海外での業務も苦にせず積極的に取り組んでくれた点。
- ・自身の強み・弱みを理解し、仲間と共に成長を見せている。
- ・情報システムの知識に関しては業務で利用する専門用語の意味を、あらかじめ理解しており業務遂行する上で手順書等を渡されただけでも、すんなり対応できているので基礎的な教育は十分されていると思われます。

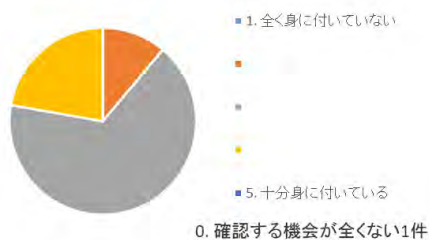
14. その他

- ・社会に出て貢献する為に必要な知識また、高度な専門知識を身につける御校の考えを十分に理解し実行していると思います。
- ・情報技術の収集・理解能力は大変高い、経験がなく、自信を持っていないものでも、先輩の助言を仰ぎながら、各種システム及び会社の他分野仕事を周りから学んで貰えればと良いと思われる。
- ・高度なプログラム知識と共にE X C E Lのマクロ教育もして頂けると、簡単な業務改善などが可能になり、企業での即戦力になると考えます。

平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

C 科就職

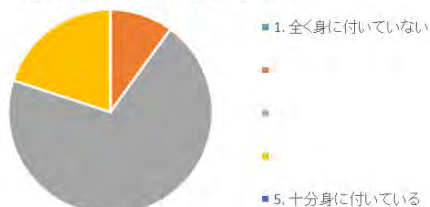
1. ディプロマ・ポリシーの「1.人文社会の基礎知識と幅広い教養」をどの程度身に付けているでしょうか？



2. ディプロマ・ポリシーの「2.英語によるコミュニケーションの基礎能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



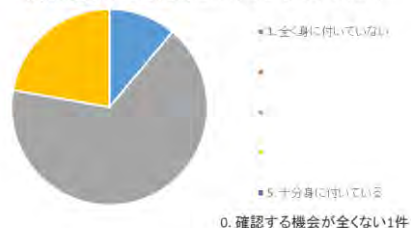
3. ディプロマ・ポリシーの「3.応用化学および生物工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



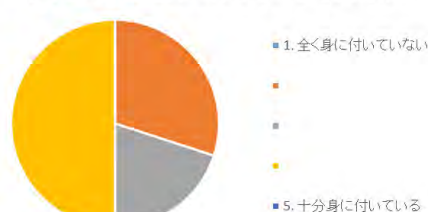
4. ディプロマ・ポリシーの「4.化学に関する理論と知識（無機化学系、有機化学系、分析化学系、生物化学系、物理化学系）、ならびに実験技術」をどの程度身に付けているでしょうか？



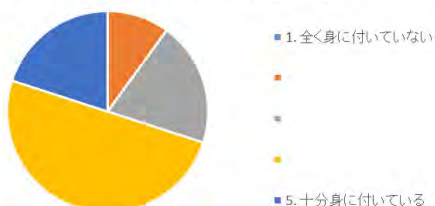
5. ディプロマ・ポリシーの「5.応用化学・生物工学に関する共通・コース別専門知識（工業化学系、化学工学系、設計・システム系、環境工学系、細胞工学系、遺伝子工学系、生体材料工学系）、ならびに実験技術」をどの程度身に付けているでしょうか？



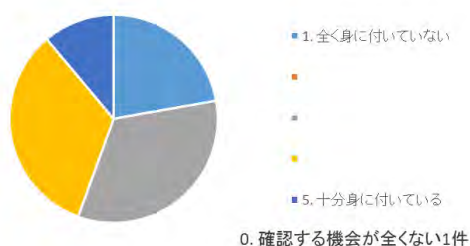
6. ディプロマ・ポリシーの「6.応用化あるいは生物工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



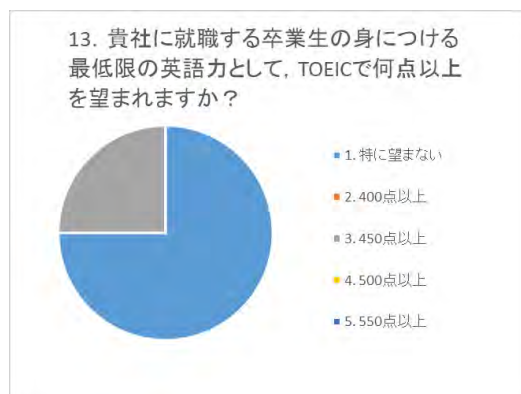
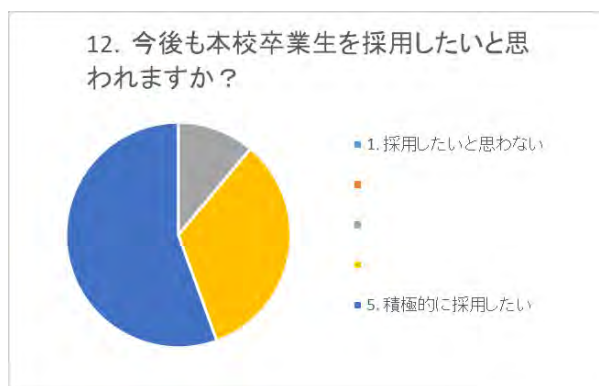
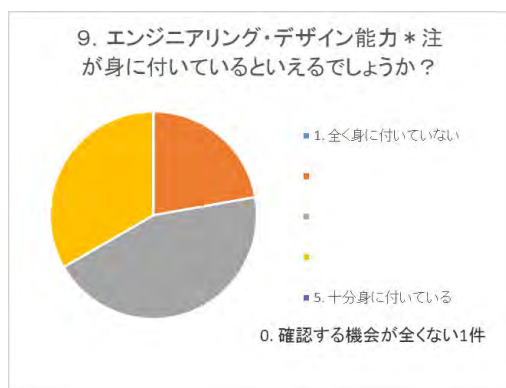
7. ディプロマ・ポリシーの「7.実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



8. ディプロマ・ポリシーの「8.技術者としての倫理観」をどの程度身に付けているでしょうか？



平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析



記述：

10. ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修するための「生物応用化学科 カリキュラム・ポリシー」を定めています。これにつきましても、ご意見がございましたらご記入下さい。

・ディプロマ・ポリシーは極めて適切かと思いますが、それを支えるカリキュラムポリシーが、貴学ならではの特徴が伝わりません。特に強調したいポイント、力を入れている部分等が学科ごとにあれば、ご記載いただけたほうが好ましいのではないかと感じました。

・専門教育の早期学習は良いことと思いますが、枠組みにとらわれない応用力・発想力・改善能力（問題提起力）の強化にも取り組んでいただけると、さらに良いように感じます。

11. 本校の教育の成果として発揮できていると考えられる具体的な事例等がございましたらご記入下さい。

・物事に対する改善の意欲は見受けられる。また、それを相手に分かり易く表現しようとする努力がある。当社の社員に、毎月業務に対する改善の提案書を提出するよう課題を与えているが、担当エリア内で協議をし、分析、解析を行い、成果を上げている。

・過去から続いている分析・試験方法の習得に関して、原理理解を深めるための努力を惜しまず、早期に習得することができた。また作業内容の改善およびマニュアル化についても、組織系統立てて実行することができた。論理思考力が高く、プレゼンテーションが聞き手のためのものになっている。高専卒業生としては極めてレベルが高い。

・業務の目的や意図についての理解が比較的スムーズで、目的を達成するために実施すべきことをロジカルに考えて進めることができています。

・プレゼンテーション（人前で話す）等でも物怖じせず対応できていると感じています。

平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

- ・自発的に自分で考えて行動できる人材が育っていると感じております。
- ・分析結果を自分なりに考察して報告している。新しい分析手法を考え、実行に移している。

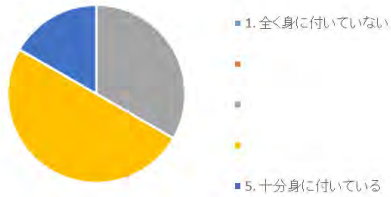
14. その他

- ・積極的に採用したいので、今後ともどうぞよろしくお願いします。
- ・人柄、仕事に対する姿勢、学習意欲が高く、学生時代に適切に指導を受け、良い環境で学習したことが伺える人財です。
- ・“新卒全体に言えることですが、メンタル疾患にかかる高専卒業生が増えております。本人の性格に起因するものも多いと思いますが、ストレス状態に強いタフな精神力を持つ学生の需要が高まっておりますので、情報共有として記載しておきます。”

平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

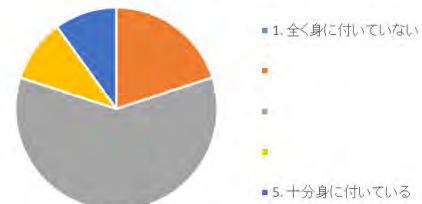
S 科就職

1. ディプロマ・ポリシーの「1.人文社会の基礎知識と幅広い教養」をどの程度身に付けているでしょうか？



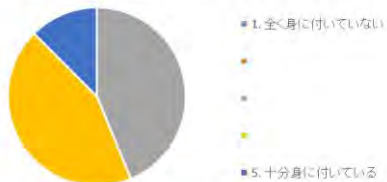
0. 確認する機会が全くない1件

2. ディプロマ・ポリシーの「2.英語によるコミュニケーションの基礎能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



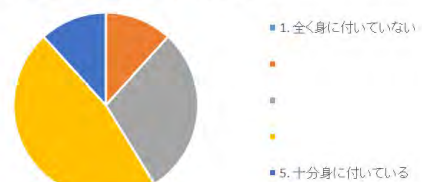
0. 確認する機会が全くない9件

3. ディプロマ・ポリシーの「3.材料工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



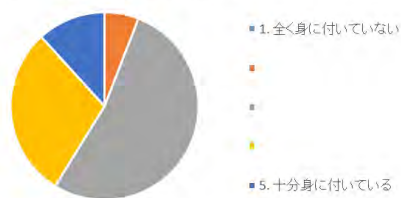
0. 確認する機会が全くない3件

4. ディプロマ・ポリシーの「4.材料工学の専門としての、金属材料、無機材料、有機材料の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



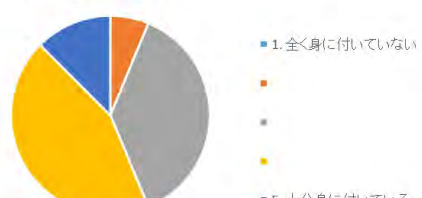
0. 確認する機会が全くない2件

5. ディプロマ・ポリシーの「5.材料の理解に必要な材料物性と物理化学の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



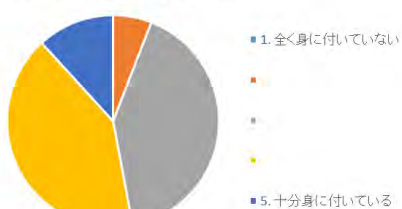
0. 確認する機会が全くない2件

6. ディプロマ・ポリシーの「6.材料の理解に必要な分析・評価の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



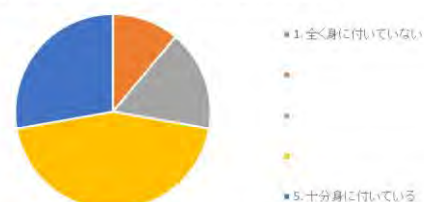
0. 確認する機会が全くない3件

7. ディプロマ・ポリシーの「7.ものづくりのための、設計・製図、加工の知識」をどの程度身に付けているでしょうか？



0. 確認する機会が全くない2件

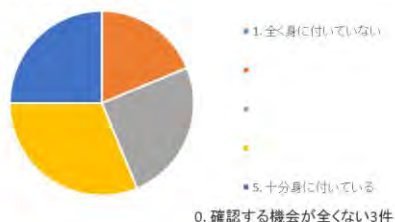
8. ディプロマ・ポリシーの「8.実験や実習を通じて、材料の合成・評価の技術、および他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



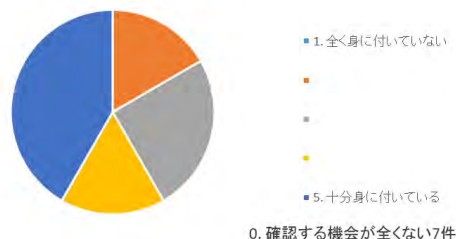
0. 確認する機会が全くない1件

平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

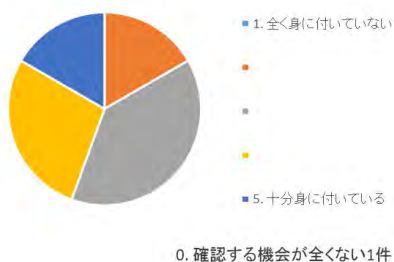
9. ディプロマ・ポリシーの「9.材料工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力」をどの程度身に付けているでしょうか？



10. ディプロマ・ポリシーの「8.技術者としての倫理観と公正な態度」をどの程度身に付けているでしょうか？



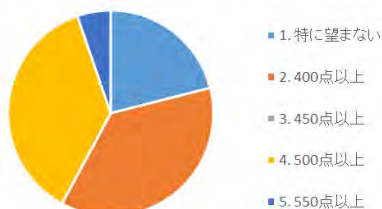
11. エンジニアリング・デザイン能力＊注が身に付いているといえるでしょうか？



14. 今後も本校卒業生を採用したいと思われますか？



15. 貴社に就職する卒業生の身につける最低限の英語力として、TOEICで何点以上を望まれますか？



記述：

12. ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修するための「材料工学科 カリキュラム・ポリシー」を定めています。これにつきましても、ご意見がございましたらご記入下さい。

・“早い段階から専門を学ぶ事により、その分野に興味を持つことに繋がり、 良い取り組みと思います。”

・教育課程系統図も拝見しましたが、このカリキュラムを完璧に遂行できているとしたら大変素晴らしいと思います。

・金属(鉄・非鉄)、無機・有機、材料物性、物理化学と幅広い材料工学のカリキュラムが組まれているのが非常に良いと思います。あとはそれぞれ応用が効くところまで掘り下げられるかが課題なのかと感じております。

平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

・複合材料、Additive Manufacturing、強度解析は非常にニーズが高く必修化範囲を広げることにより即戦力としての活躍の場が広がると思います。また英語教育は、大学でも理数系特有の表現（数式や表、グラフの読み方・書き方）を教えるところが少なく、海外の技術者とのやり取りで弱点になっているので、逆にここの教育に力を入れることはアドバンテージになると思料します。

・高専の特徴である5年一貫教育課程において、貴校の社会に貢献できる有能な人財・グローバルに活躍できる人財の輩出を視野に入れた教育方針は、弊社における人財育成方針にも通ずるものであり、感銘を受けております。

・なかなか2年や3年の範囲内で専門的なところまで深く探求することは難しいと思われるが、まずは工学に対しての最低限の考え方の知識教養は幅広く身に付けていただけるカリキュラムポリシーになっていると思います。

・物事、事案に対して考えることが出来る。困難な事案にあたったときに解決する糸口を見つけるため専門的知識は大きく影響すると思いますので、早い段階から専門教育をおこないより深く理解することは有益であると思います。

・早い段階からの専門教育は、高い目標と動機付けを修学者に対して与えるものであり、またそれを身近に感じさせるのに最適とかがえ、高く評価しているものである。

・〇〇さんお一人しか存じ上げませんが、一般教養/常識はございません。特に対人関係の構築については、本人の性格も有るかもしれませんが、会社内/他部署/他組織と良好な関係を築いています。また工学全般についての知識もあり、弊社内の専門的な取り組みを行なうペースとして、十分な知識を有していると考えております。

・“現在の職務は鍛造製品の品質保証業務をしております。直近で材料に関する業務に従事する事はありませんでしたが、実際の製鋼工程を確認した事が無い（見学した事が無い）との事でした。業務を行う中、鋼材メーカーで製鋼工程を自分の眼で確かめてもらう事により、知識向上に繋がると考えます。厳しい授業時間ではあると思いますが、製鋼工程を間近で見る機会を作って頂けたらと思います。入社後、2社の製鋼メーカーに出張して頂き、知識向上に努めております。僭越ではございますが、ご検討の程、よろしくお願い致します。”

13. 本校の教育の成果として発揮できていると考えられる具体的な事例等がございましたらご記入下さい。

・“ものづくりに関して自分で考え、その考え方を積極的に発言している姿を見ます。そういった点は、専門性やコミュニケーション性を身に付けている証拠なのかなと思います。”

・仮説を検証する作業において、他に実施事例がない実験を実験道具から観察方法まで自分で考えながら進めて行っている。

・“若さを最大限活かして、フットワークも軽くよく動いてくれます。またコミュニケーション能力が高く、現場のベテラン社員からもかわいがられています。問題には粘り強く取り組んでおり、最後までやり遂げることで自身の成長にもつながっています。”

・“新入社員として就業以来、弊社の研修・訓練課程を順調に消化し、業務遂行をしながら成長しております。その中で特筆すべきものとしては、弊社に新機械導入の機会があり、海外メーカーへの派遣メンバーのひとりとして訓練を受け、吸収した知識を帰国後に実務へ活かすといった経験をしています。こうしたことを通じて、技術者としての実力を発揮しつつあるということが、貴校の教育成果の賜物であると考えております。”

・実際の仕事の中では学んでいたことをそのまま継続するような場面は少ないですが、過去に触りでも学んでいたことを応用し使う場面は多く、その点では仕事の説明・取り組みがスムーズであった。

平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

- ・弊社はコーティングメーカということもあり、多種多様な材料（金属材料をはじめセラミックスなどの無機材料等）を扱っております。その中で材料特性に関する知識をある程度持っているため、扱いがはじめてのものにおいても物性、特性の把握・理解が早く出来ていると思います。
- ・自分自身で文献調査をして、自ら問題点を解決しようとする姿勢が身についています。
- ・現在生産技術部で業務を行ってもらっており、現場に近い技術者という立場で問題発見と対応力の部分で力を発揮してもらっている。
- ・現在生産技術部で加工部品の工程設計を担当してもらっており、図面の知識及び材料の知識は役立っていると考えます。
- ・現在担当している業務は材料に特化した業務ではないが、機械加工・表面処理・熱処理に関しても材料は基礎知識として必要であり、今後この知識は発揮されと考えています。
- ・本校卒業生はおしなべて、努力と工夫ができる人材であるという印象を持っている。それはおそらく教育の成果ではないかと考える。
- ・製品製造にあたり作図/製図を行なう機会が多々ございます。CAD を駆使して加工前の製品寸法から加工後の完成品をイメージする業務もございます。これも難なくこなし、自部署メンバーとの意見交換も積極的に出来ています。色々な IT ツールはこれからは必須となりますので、このような部分は非常に貢献しています。
- ・現在、卒業生社員は、生産部門に所属しており、液晶ディスプレイに使用するカラーフィルターの材料となるカラーインキの生産を担当しています。その中で、これまでの知識や能力を生かし品質安定化や高効率化に繋がる改善活動に取り組み、成果を上げていただいております。

16. その他

- ・最近の新入社員全般に共通なのですが、論理立てた日本語の文章を書く訓練が不足しているように感じます。きちんとした文章を読む機会が少ないこともその一因と考えますので、在校生には読書を奨励していただければとおもいます。仮に IT の進化で英会話の重要性が下がったとしても、論理的思考能力の価値が色褪せることはないと考えます。
- ・“現在、〇〇社員が取り組んでいる業務においては、材料工学の知識を大いに発揮するという場面が少ないことから、上記ご質問の中には評価点が低いものや、点数を付けられないものがございます。これは、〇〇社員個人の知識・能力が身につけていないという意味では決してございませんので、ご理解のほどよろしくお願いします。
- ・一人で考えるだけでなく、先輩や同僚と話し合う姿も良く見られ、学校教育の中でも問題解決を話し合いの中で進めることを実践されたのではと感じた。
- ・今回の該当者は編入生なので一般の方とは異なると思います。
- ・“弊社の求める新入社員として満足できるレベルと考えます。今後も弊社の採用にご協力をお願いします。”
- ・“弊社の新入社員に求めるレベルとして満足できるレベルと考えます。今後も弊社の採用にご協力をお願いします。”
- ・生産技術部の業務は現場に近い技術者という立場になるため、貴校のように実習等に力を入れより実践的な教育は弊社として採用したい人材が育つと考えています。
- ・今後ともその方向で展開していただくことを希望する。

平成28年度本科卒業生上司による「学習・教育到達目標」達成度等に関するアンケート調査集計結果の分析

・“製造業での業務は工学基礎/電気電子基礎が必須と考えております。学部により専門分野は異なってきますが、ものづくりとしての基礎を備えた学生を輩出して頂き感謝しております。また英語力に関しては、入社時の英語力は不問でございますが、入社後の英語学習への積極性を重視したいと考えております。記入：〇〇株式会社 〇〇工場 〇課 ”

・入社後、経験を活かせる業務とは違う鍛造工程での業務となっていますが、積極的に他部署との折衝や自分の意見を述べており、学校側での教育の成果と良い人材を送り出して頂き、感謝しております。本人も将来は材料を中心とした業務に就きたいとの事ですので、鍛造で製造知識を習得した後、材料関係の業務に就かせたいと考えます。



高専ビジネスコンテスト in 鈴鹿高専 2024

—— 夢を紡ぎ新しい未来へ ——

近年、多くの先進国で労働力に関する問題が発生しています。
高専生の力で労働問題を解決するビジネスを考案します。

テーマ

労働力不足を解決できる新しいビジネスを
創造する

日程

12月10日(火) ~ 12月14日(土)

会場

鈴鹿高専内 起業家工房

※対面参加が困難な場合は、オンライン可

賞品

Amazonギフト券5万円

旅費付き東京オフィスツアー 等

プログラム

Day1 キックオフ会

Day2~Day4

リーンキャンパス作成
学生間のフィードバック
追い込み & 資料提出

Day5 最終発表会 & 交流会

応募 & 詳細はこちら



チーム応募の場合も
代表者以外のメンバー
もご入力ください。

応募×: 12/6 (金) 21:00

問い合わせ先

高専ビジコン運営事務局
oncon@prossell.jp

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	課題研究（生成AI講座）	
科目基礎情報							
科目番号	0189			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科			対象学年	5		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材							
担当教員	鈴鹿高専 テクノプラザ						
到達目標							
・生成AI概要について説明ができる ・生成AIの有用性を説明ができる ・生成AIの活用事例を学び、適切な出力を生成する ・生成AIを活用したDXを実現するための提案ができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	生成AI概要について詳細に説明ができる		生成AI概要について説明ができる		生成AI概要について説明ができない		
評価項目2	生成AIの有用性を詳細に説明ができる		生成AIの有用性を説明ができる		生成AIの有用性を説明ができない		
評価項目3	生成AIの実践的な出力を生成できる		生成AIの適切な出力を生成できる		生成AIの適切な出力を生成できない		
評価項目4	生成AIを活用したDXを実現できる		生成AIを活用したDXを企画・設計できる		生成AIを活用したDXを企画・設計できない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	目的：生成AIの基礎、有用性などを、座学・演習を通して理解を深める 学科：全学科 学年：全学年 時間：90分×15回（水曜日14:30-16:00） 場所：情報処理センター 演習室 人数：学生40名+科目等履修生10名						
授業の進め方・方法							
注意点	本講座は、鈴鹿高専テクノプラザの寄附講座です。鈴鹿高専テクノプラザ会員企業の株式会社FIXERによる講義となります。演習はGaiXerを利用します。同時に鈴鹿高専テクノプラザ会員企業の方々が、科目等履修生として受講します。 <到達目標の評価方法と基準> <学業成績の評価方法および評価基準> 原則として成果発表で評価する。 <単位修得要件> 学業成績で60点以上を取得すること。 <あらかじめ要求される基礎知識の範囲> <レポート等>						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	生成AIとは (5/15予定)		生成AIの構成要素や代表事例を学ぶ		
		2週	生成AI強み、弱み (5/22予定)		生成AIの持つ特性を理解する		
		3週	プロンプト概論 (5/29予定)		プロンプトの重要性を理解する		
		4週	プロンプト演習 (6/19予定)		GaiXerを使って生成AIの特性を理解する		
		5週	高度なプロンプト解説 (7/3予定)		プロンプトエンジニアリングの実例を学ぶ		
		6週	高度なプロンプト演習 (7/17予定)		プロンプトの重要性を理解する		
		7週	6回までの講義のまとめ・振り返り (7/31予定)		これまでに学習した内容を説明できる		
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週	生成AIを活用して実現したい課題の抽出（企画） (10/2予定)		生成AIを活用して実現したい課題を抽出する（企画）		

		2週	生成AIを活用して実現したい課題の抽出（企画） （10/9予定）	生成AIを活用して実現したい課題を抽出する（企画）
		3週	課題の改善策を創造する（設計） （10/30予定）	課題の改善策を創造する（設計）
		4週	課題の改善策を創造する（設計） （11/13予定）	課題の改善策を創造する（設計）
		5週	課題の改善策を創造する（設計） （12/4予定）	課題の改善策を創造する（設計）
		6週	成果発表準備 （12/18予定）	最終発表に向けた資料作成及び的確な説明ができるようにする
		7週	成果発表 （1/15予定）	成果発表を実施する
		8週	成果発表の振り返り・評価 （1/22予定）	成果発表での評価を振り返りをする
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	50	0	0	0	0	50
専門的能力	0	30	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	20	0	0	0	0	20

学校案内

学科・専攻科

入試情報

企業の皆様

地域の皆様

在学生・保護者の皆様

卒業生の皆様

企業の皆様

鈴鹿工業高等専門学校 - 創造力豊かな国際社会に通用するエンジニアを育成 > 教員一覧

教員一覧

校長

	校長	researchmap	表面科学、腐食防食、環境材料学、Surface Science、Corrosion and Protection、Environmental Materials
--	----	-------------	--

機械工学科

教授	教員紹介	researchmap	物体周りの流れ、流動抵抗、CFD解析、ポンプ性能実験、Fluid Engineering
教授	教員紹介	researchmap	炭素繊維強化複合材料、竹繊維、複合材料、多軸、FEM、Composite、Biaxial
教授	教員紹介	researchmap	気液二相流、気液界面現象、液体の微粒化、Gas-Liquid Two-Phase Flow、Gas-Liquid Interfacial Phenomena、Liquid Atomization
教授	教員紹介	researchmap	微小物体、コイン形状対象物、把握戦略、ロボット、環境適応、外乱オブザーバ、関節剛性、モーションコントロール、駆動、ヒステリシス特性、非線形バネ機構、剛性、非線形バネ、ゲインスケジューリング制御、リミッター、非干渉化、モデルベース強化学習、位置決め、移動車両、関節剛性調整機構、多指ロボットハンド、ROBOTICS
特任教授	教員紹介	researchmap	光学的手法、超音波、実験応力ひずみ解析、Ultrasonic、Experimental Stress Analysis
准教授	教員紹介	researchmap	レーザーアブレーション、高機能薄膜生成、小型PLD製膜装置、物性、材料設計、疲労特性評価、PZTにおけるひずみ測定、Strain Measurement of PZT
准教授	教員紹介	researchmap	ロボット、リハビリテーション、数値シミュレーション、スライディングモード制御、ばね下荷重、リニアモータ、リニア振動アクチュエータ、エンジン、制御、インホイール駆動システム、位置決め制御、電気自動車、制御工学、エンジンバルブ、機構解析、インホイールモータ、電磁駆動バルブ、遺伝的アルゴリズム、自動車
准教授	教員紹介	researchmap	運転動力の低減、伝熱特性、オリフィスノズル、衝突噴流
准教授	教員紹介	researchmap	材料力学、トライボロジー、破壊力学、疲労破壊、非破壊検査
准教授	教員紹介	researchmap	数値計算、流体力学、機械学習

電気電子工学科

教授	教員紹介	researchmap	アナログ電子回路、画像処理、ニューラルネットワーク、Pattern Recognition by Neural Network
教授	教員紹介	researchmap	実験教材、半導体デバイス、MOS電界効果トランジスタ、シリコン太陽電池、nanocrystalline Si、OEIC、Environmental Semiconductor
教授	教員紹介	researchmap	省エネ・小型化・可搬性、サステナビリティ、磁石配列、環境発電、磁気工学、磁性材料
准教授	教員紹介	researchmap	応用物理教育、分光、レーザー、プラズマ、Laser、Plasma
准教授	教員紹介	researchmap	太陽電池、色素増感太陽電池、電気化学、薄膜形成、オンライン学習教材、TinkerCad
准教授	教員紹介	researchmap	融液成長、静電プロセス、レーザープロセス、電子ビーム応用、電界放射、工学教育
准教授	教員紹介	researchmap	磁性フォトリソグラフィ、非破壊検査、磁気光学イメージング、磁性材料
准教授	教員紹介	researchmap	最適化、非線形問題、ニューラルネットワーク

企業の皆様

企業の皆様トップ

就職（求人）・インターンシップ

共同研究推進センター

鈴鹿高専テクノプラザ

教員一覧

産学官協働研究室(K-Team)

全国高専共同利用マテリアル分析センター

電子情報工学科

教授	教員紹介	researchmap	姿勢推定、機械学習、慣性力センサ、表面筋電位、筋肉モデル、ヒト生体骨格筋、点欠陥、DLTS、半導体
教授	教員紹介	researchmap	比喩認識、Metaphor Recognition
教授	教員紹介	researchmap	バーチャルリアリティ、Virtual Reality
教授	教員紹介	researchmap	EMC
教授	教員紹介	researchmap	デジタルリポジトリ、ゲノム創薬、学術情報流通、機械学習、IoT
嘱託教授	教員紹介	researchmap	無線ネットワーク、等化、変復調
准教授	教員紹介	researchmap	IoT、CFRP、渦電流探傷試験、非破壊検査、渦電流センサ、任意形状コイル、磁界解析
准教授	教員紹介	researchmap	コンピュータビジョン、コンピュータグラフィックス
講師	教員紹介	researchmap	ゲーム理論、エージェントベースシミュレーション
嘱託講師	教員紹介	researchmap	ニューロコンピュータ、Neural computing
助教	教員紹介	researchmap	非破壊検査工学、ゼータ関数の値分布論、ハイパー群、電磁界解析、高専教育

生物応用化学科

教授	教員紹介	researchmap	構造・機能材料、Structural and Functional Materials
教授	教員紹介	researchmap	結晶化学、分離・精製、凝集、優先晶析、結晶多形、結晶形状
教授	教員紹介	researchmap	鉄鋼スラグ、バイオフィーム、イオン液体、鉛蓄電池、界面制御工学、原子間力顕微鏡、走査型プローブ顕微鏡
教授	教員紹介	researchmap	クロマトグラフィー、光学分割、キラリティー、機能高分子化学
教授	教員紹介	researchmap	超分子化学、構造有機化学、Structural organic chemistry、Supramolecular chemistry
教授	教員紹介	researchmap	塩濃度調節、カニ類、ホルモン、リモデリング、アフリカツメガエル、両生類
准教授	教員紹介	researchmap	NCA、ポリアミノ酸、生体材料、高分子合成
准教授	教員紹介	researchmap	金属アレルギー、細菌叢解析、抗体生産、生体材料、生物腐食、バイオフィーム、無血清培養、めっき加工材料、生体金属、金属腐食、溶出特性、金属評価手法、細胞機能、鉄鋼、めっき加工
准教授	教員紹介	researchmap	工学教育、メダカ、環境分析、電解水、ライフサイクルアセスメント、バイオアッセイ、メタン発酵、排水処理
准教授	教員紹介	researchmap	プロテインキナーゼ、タンパク質相互作用、野生酵母、胞子形成、メンブレントラフィック、分裂酵母

材料工学科

教授	教員紹介	researchmap	廃棄系バイオマス、環境調和型高分子材料、有機化学、環境科学、Environmental science、Organic chemistry
教授	教員紹介	researchmap	分子軌道計算、材料設計、Molecular Orbital Calculation、Material Design
教授	教員紹介	researchmap	ガラス、ガラスセラミックス、欠陥、希土類イオン、遷移金属イオン、セラミック、蛍光、分光分析、残光、2次非線形光学効果、3次非線形光学効果
教授	教員紹介	researchmap	構造・機能材料、人工衛星、環境劣化、加工熱処理、長寿命化、医療・福祉、結晶粒微細化、金属物性、超寿命化、解析・評価、マクロ生物付着、バイオフィアウリング、表面分析、クローンライブラリー法、イオン注入、海洋細菌、遺伝子解析、摩擦係数、生物付着、バイオフィーム、溶射、摩擦摩耗試験、マイクロ生物付着、クオラムセンシング、表面組成、耐食性、ニッケルフリー合金、耐摩耗性、クロムめっき、コバルトクロム合金、耐熱合金、金属系抗菌材料、機械的性質、Niフリーステンレス鋼、生体材料、Mechanical Properties、Ni-free Stainless Steel、Biomaterial
教授	教員紹介	researchmap	金属組織、金属物性、加工熱処理、チタン合金、鋳鉄
准教授	教員紹介	researchmap	大学教育、遺伝子検査技術、生体適合性材料
准教授	教員紹介	researchmap	溶融塩化学、鉄鋼製錬工学、金属製錬工学、電気化学、物理化学、無機化学
准教授	教員紹介	researchmap	バイオミネラリゼーション、真珠、機能性材料、スラグ、電気化学的水晶振動子測定法、電気化学測定、バイオフィーム
講師	教員紹介	researchmap	有機合成化学、創薬化学

教授	教員紹介	researchmap	近代短歌、美学(含芸術諸学)、文学、Aesthetics(including Arts)、Japanese Literature
教授	教員紹介	researchmap	日本近代文学、芥川龍之介、大正・昭和初期の文学状況、Japanese Literature
准教授	教員紹介	researchmap	皇室、元・モンゴル、金・女真、西夏・タングート、遼・契丹、唐、儀礼、和書公主、外交、婚姻、中国古代・中世
准教授	教員紹介	researchmap	日本近世文学、日本文化史、民間信仰、白澤、戸隠、御師
講師	教員紹介	researchmap	自治体史、政治史、選挙制度論、政治学
教授	教員紹介	researchmap	整数論、Number Theory
教授	教員紹介	researchmap	数学教育、Mathematical Education
教授	教員紹介	researchmap	多元環、代数学、環論、表現論
准教授	教員紹介	researchmap	代数学、表現論、組合せ論
講師	教員紹介	researchmap	多変数関数論(多変数複素解析学)、多重複素グリーン関数、 L^2 拡張定理
教授	教員紹介	researchmap	三体力、バリオン間相互作用、クォーク模型、Baryon-baryon Interaction、Quark Model
嘱託教授	教員紹介	researchmap	脱塩素、酸化亜鉛、SUZUKA産学官交流会、バイオフィルム、科学教育、ケミカルリサイクル、廃プラスチック、ゼオライト、触媒、heterogeneous catalyst、chemical recycle
准教授	教員紹介	researchmap	生物物理学
准教授	教員紹介	researchmap	X線構造解析、バイオフィウリング、亜鉛、EPS、生物付着、電子スピン共鳴、バイオフィルム、交流帯磁率、LBR、スピンプラストレーション、核磁気共鳴、ストロンチウム、磁気比熱、イメージング技術、磁場、分離濃縮、複屈折、中性子散乱、セシウム、分離回収、不純物効果、構造相転移、三角スピンチューブ、ミューオンスピン共鳴、元素の濃縮と分離、原位置浄化、実験室的バイオフィルム加速形成反応容器、バイオフィルム形成加速試験、強磁場磁化過程、中性子回折、X線回折、フラストレーション、ハニカム格子、量子スピン系、遷移金属酸化物、磁性
講師	教員紹介	researchmap	数理論、物性基礎、素粒子、原子核、宇宙線、宇宙物理に関する理論
教授	教員紹介	researchmap	協同学習、英語科授業分析、Classroom Research
教授	教員紹介	researchmap	メディア論、都市論、文化研究、批評理論、ポストモダニズム、モダニズム
教授	教員紹介	researchmap	19世紀イギリス小説、シャーロット・ブロンテ、プランウェル・ブロンテ、アン・ブロンテ
准教授	教員紹介	researchmap	English oral presentation、Social, cultural, and ethical factors related to the rejection, adoption and de-adoption of agricultural biotechnology、English oral communication
准教授	教員紹介	researchmap	ウィリアム・シェイクスピア、セクシュアリティ、クイア・スタディーズ、女同士の絆、財産相続
講師	教員紹介	researchmap	英語構文、構文イデオロム、コーパスを利用した言語教育
教授	教員紹介	researchmap	走高跳、筋膜、運動療法、Evaluation
講師	教員紹介	researchmap	バレーボール、水泳
講師	教員紹介	researchmap	事例研究、トレーニング、コーチング、技能習得、動作改善、コツ、棒高跳

最終列の関連キーワードは、researchmapの研究キーワード等を参考に作成しています。

このページの先頭へ

[ホーム](#) |
 [学校案内](#) |
 [学科・専攻科](#) |
 [入試情報](#) |
 [企業の皆様](#) |
 [地域の皆様](#) |
 [在学生・保護者の皆様](#) |
 [卒業生の皆様](#) |
 [新着情報](#) |
 [フォト広報](#) |
 [メディア情報](#) |
 [情報公開](#) |
 [リンク集](#) |
 [サイトポリシー](#)

独立行政法人 国立高等専門学校機構 鈴鹿工業高等専門学校
〒510-0294 三重県鈴鹿市白子町 お問い合わせ・連絡先